



GO GLOBAL

東大から世界へ

東京大学 留学・国際教育情報 2025



Go Global

一分断を超えて

東京大学理事・副学長 林 香里



今日の世界では、残念ながら各地でさまざまな対立と衝突が繰り返られ、多くの人びとの平和と幸福が奪われています。

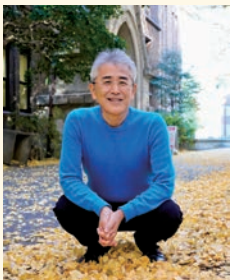
世界中で深い亀裂と分断が見られる今こそ、東京大学が提供するたくさんの国際交流の機会を利用しながら、世界の実情を多面的に捉え、未来を考える力を養ってください。他者との対話と共感をいかに育むか、平和でインクルーシブな社会をいかに実現するべきか等、国際交流の現場に立って、大学での学びのあり方も考えてみてください。

東京大学では従来のプログラムに加え、今後はとくに「グローバルサウス」と呼ばれる地域との交流に力を入れてまいります。世界的に見ると、貧困問題、環境問題、人権問題がこうした地域に集中している一方、経済的にはグローバルサウスの名目GDPの合計は2020年には40%を占め、人口も2050年までに全世界の3分の2を占めるとも予測されています。これまであまり知る機会のなかった社会について学び、体験することによって、新しい視点を培ってもらいたいと願っています。

異なった生活習慣の体験、新しい友だちづくり、言語の習得、興味深い研究テーマの発見等、若いうちの海外留学をぜひ考えてください。世界の舞台で活躍するための基盤となる、貴重で一生の宝ものになることまちがいなしです。在学中にかけがえのない国際体験をして、グローバルな知識と感性を磨いてください。

世界に目を向けて

東京大学副学長・グローバル教育センター長 矢口祐人



東京大学では在学中に国際的な活動をしたいと考えている学生は少なくないのに、実際に海外で学ぶ人はそれほど多くありません。

ためらう理由があるとすれば何でしょうか。自分の語学力ではついていけないかも、お金がたくさんかかるのでは、留年してしまうのは困る、就職活動に響くのでは…いろいろな不安があるのかもしれない。

グローバル教育センター(GlobE)では、そのような不安をなるべく取り除く努力をしています。興味と語学力に合ったプログラム、奨学金の情報、留学中に気をつけるべき点など、丁寧なアドバイジングを提供します。たくさんの学生がスムーズな留学ができるよう、教職員が一丸となり、大学の「グローバル教育コンシエルジュ」となります。

このガイドブックにあるように、東京大学では多様なグローバルプログラムを提供しています。近年は南アジアやアフリカなど、これまで教育交流が少なかった地域にも力を入れています。

慣れない言語文化環境にあえて身を置き、新しい視座を得ることは、将来、どのようなキャリアに進んでも役に立つ経験です。ぜひ、入学前には想像もしなかった世界に踏み出してください。

CONTENTS

I 留学・国際教育プログラム・・・ p2-33

1. Go Global Gateway・・・ p2-3

2. グローバルリーダー育成プログラム・・・ p4-5

3. 全学生対象の留学プログラム (1学期～1年)・・・ p6-12

1) 全学交換留学(USTEP)・・・ p6-11

2) 学期単位のプログラム・・・ p12

4. 全学生対象の短期プログラム (1ヶ月前後)・・・ p13-18

1) グローバル教育センター担当の短期プログラム・・・ p13-14

2) 直接応募の短期プログラム・・・ p15

5. 全学生対象の体験活動・インターンシップ・・・ p19-21

1) 体験活動プログラム・・・ p19

2) 協創企業等との人材育成プログラム 【UGIP】【UCOP】・・・ p20-21

6. 各学部・研究科によるプログラム・・・ p22-27

1) 学部・研究科間交換留学 協定校一覧・・・ p22-24

2) 教養学部前期課程「国際研修」／ 後期課程「後期国際研修」・・・ p25

3) 各学部・研究科による海外プログラム・・・ p26-27

7. 学内でできる国際体験・・・ p28-33

1) グローバル教養科目 Global Liberal Arts Courses (GLA)・・・ p28

2) UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)・・・ p29

3) Dialogue at UTokyo GlobE・・・ p30

4) USTEPパートナーズ・・・ p30

5) グローバル教育センターによるその他の活動・・・ p31

6) グローバリゼーションオフィス (総合文化研究科・教養学部)の活動・・・ p32

7) Global Studies Program (GS)・・・ p32

8) International Lounge (IL)・・・ p33

9) スペシャル・イングリッシュ・レッスン (SEL)・・・ p33

10) UTokyo Amgen Scholars Program・・・ p33

II 留学の計画と準備・・・ p34-49

1. 留学を成功させるために・・・ p34-36

1) 計画を立てよう・・・ p34

2) 情報を集めよう・・・ p35-36

3) 応募条件をクリアしよう・・・ p36

2. グローバル教育センター・・・ p37

3. 留学にかかる費用と奨学金・・・ p38-41

1) 費用と奨学金例・・・ p38-39

2) 支援者からのメッセージ・・・ p40-41

4. 留学における学籍・単位認定・・・ p42-43

5. 語学能力検定試験・・・ p44

6. 安全と危機管理・・・ p45

7. 留学と就職活動・・・ p46

8. 卒業後の大学院留学・・・ p47

9. よくある質問・・・ p48-49

I 留学・国際教育プログラム

1. Go Global Gateway

国際総合力認定制度

2025年4月
リニューアル！

学部学生が「国際総合力」（世界の多様な人々と共に生き、共に働く力）を伸ばすための制度です。オンデマンドの基礎講座を通じて国際的な活動に取り組む準備をして、GO GLOBAL 東大留学フェア等への参加、外国語学修を始めましょう。そして、外国語による授業科目の履修に取り組み、さらには、こうした活動を通して身に着けた国際感覚をもとに、短期海外派遣プログラムや交換留学などの海外での活動にも挑戦しましょう。オンデマンド基礎講座の受講、外国語学修、そして、外国語による授業科目の履修または海外での活動への参加を完了することで、国際総合力認定を目指しましょう。特に、GLP-I (p4-5)・GLP-II (TLP) を修了すると、国際総合力+（プラス）が認定されます。

まずはオンデマンド基礎講座の受講で留学・国際活動のスタートを切ろう！

留学フェア、全学交換留学（USTEP）、短期留学プログラム等
東京大学でのさまざまな活動に申請・参加するための必須要件！

4つのテーマの動画を視聴

105分

- ✓ なぜ国際的な活動に取り組むのか？
- ✓ 「国際総合力」について
- ✓ 国際的な活動にあたっての心構え
- ✓ 留学・学生交流プログラムの参加手続き



グローバル教育センター (GlobE) と
本部国際教育推進課の教職員、
東京大学の学生がお話します！

確認テストに回答

国際的な活動に申請・参加



受講の流れ

授業1コマ分！

1. QRコードからGo Global Gateway のページにアクセス
2. オンデマンド動画による基礎講座を受講し、確認テストに回答
(所要時間：動画視聴と確認テストを合わせて約90～105分)

詳細・受講はこちら
まずはアクセス！



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-gateway/ja/index.html>

短期海外留学プログラム参加者の声



氏名：中村 有希さん
所属・学年(プログラム参加時)：法学部3年
参加プログラム：東京大学-アジア女性大学(AUW)合同ウィンタープログラム「21世紀の人の移動～移民、難民、避難民の視点から」"Migration, Immigration, and Refugees"
参加時期：2024年2～3月(約10日間)
撮影地：スペイン・グラナダ

進路決定の大きな判断材料となった10日間

①プログラムへの参加を決めた理由

前年の夏に東京大学で行われたAUWの学生との交流活動に参加し、彼女達の将来を見据えて自分にできることを何か行動しようという意識や積極性に刺激を受け、その時に話していない学生とも意見交換をしてみたいと思ったからです。

*東京大学-アジア女性大学(AUW)合同サマープログラムは、東京大学で2023年7月～8月(10日間)行われました。

②プログラムの内容

10日間のプログラム中、平日は基本的に朝から夕方までAUWの学生と共に移民・難民についての講義を受講しました。夕食時にはロビンギャであったりアフガニスタン出身であったり様々なバックグラウンドを持つ学生のスピーチを聞き、その後交流しました。他にもジーンズ工場や船のリサイクル工場などの見学をしました。また大学関係者の結婚式に参列しダンスを踊ったり、ショッピングに出かけ現地の伝統的な服を購入し、日本食レストランで夕食を取ることも。最終日の前日にはAUWから多くの学生が集まり自身の出身の歌やダンスを披露するCultural Nightへ参加しました。

③プログラムを勧める点

あまり出会う機会がなかった南アジア出身の学生らと話し、ムスリムとして生きる彼女達の生活や、女性の社会進出と地域の伝統を守らなくてはならない葛藤を目の当たりにしました。直接対峙したことのないそれらの話において、何をどこまでどう言及していいかの判断が難しかった一方で、実際に友人を作り、実態と話し方の塩梅を知ることこれからグローバルな世界で生きる中で非常に重要な経験だったと認識しています。また、日本とは全く違う生活を送ることで自分が何を重要視しているかを知ることができました。バスの中で使用しているスマホを窓の外から奪われそうになることもあり、大学の外に出かける際には警備員がつきます。そのような国のインフラや治安を発展させたいと思うのか、日本のそれらの維持に貢献したいと思うのか。新しい環境から自分が何を重要なものと認識するのかを考えることは、進路を決定するにあたって非常に大事であると感じました。

短期海外留学プログラム参加者の声



氏名：平田 泰之さん
所属・学年(プログラム参加時)：工学部3年
参加プログラム：東京大学-プリンストン大学 合同プログラム"People and Culture of Japan in the United States—Past, Present and the Future"
参加時期：2024年3月(約10日間)

米国で新しい親友を

①プログラムへの参加を決めた理由

将来は米国でキャリアを築くと以前から決めていたこともあり、海外で日本人がどう活躍できるかには興味がありました。それを日本の講義を通して学ぶのではなく、実際に現地を訪れて肌で感じる機会であったため、参加を決めました。

②プログラムの内容

東京大学・プリンストン大学の学生合計15人ほどで、米国における日本人の文化・歴史について1週間ほど考えることができました。前半部分は、ニューヨークにある東京大学のオフィスで、毎日ゲストスピーカーのお話を聞き、学んだ内容をもとに議論を繰り返しました。後半はプリンストン大学で行われ、学生にキャンパスを案内してもらい、米国のトップ大学の学生生活を垣間見ることができました。また、一方的に米国について学ぶだけでなく、日本に興味があるプリンストン大の学生たちに日本語を教え、一緒にニューヨークを探索する日々でした。

③プログラムを勧める点

Super TuesdayやMarch Madnessの時期に政治や大学スポーツの話もできたのは貴重な経験となりましたが、今回得られたものは単純な知識や新たな視点だけではなく、長い1日の後に転む2段ベッドの上下で夜通し話したことや、意気投合したプリンストン大の学生が熱く語ってくれた日本の昭和歌謡曲の話は、今でも鮮明に覚えています。プログラムに参加したのがつい半年前とは思えないほど皆と仲が良いです。プリンストン大の学生は日本に興味があることもあり、この半年の間に複数人が東京に遊びに来ていて、その度に本郷を案内して食事をともにしています。

実際に参加するまで、何が得られるかはわかりません。米国について学びたいという気持ちが少しでもあるならば、参加をおすすめします。

2. グローバルリーダー育成プログラム

概要

“UTokyo Global Leadership Program”（東京大学グローバルリーダー育成プログラム（GLP））は、東京大学のすべての学部学生に開かれたプログラムです。グローバルに活躍するキャリアやリーダーシップ・スキルに関心のある学生の参加を歓迎します。GLPは、21世紀のグローバルな課題に取り組む際に求められる、多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）の観点と、分野を超えた問題解決志向のアプローチを重視しています。

グローバルリーダー育成プログラム-I（GLP-I）

グローバルリーダー育成プログラム（GLP）のうち、GLP-Iはおもに英語で行われるプログラムです。

特徴

- 選抜はありません
- 東京大学の全学部学生に開かれています
- 他学部の学生や留学生とともに英語で学びます

GLP-Iに参加することで得られるもの

- ①異文化＋分野横断的 留学生とともに学び、あらゆる学部の仲間と出会うチャンスがあります。
- ②東大x Minerva ミネルバ・プロジェクトとの協働で開発された授業でグローバルな視座を広げ、21世紀社会のコンピテンシーを身に付けられます。
- ③英語での学び グローバルな視座で学びを深めることができます。
- ④学生主導のプロジェクト 取り組んだ学習活動やその成果を、就職活動などでも紹介できます。
- ⑤奨学金のチャンス 各構成要素（必須要素優先）の修了状況に応じて、Global Experiences参加のための充実した奨学金の受給機会が最大2回あります。
- ⑥修了認定 GLP-Iの修了証が発行され、履歴書に記載できます。

UTokyo

GlobE

Global Leadership Program

GLP-Iの構成

GLP-Iの修了には、「グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC-I:リーダーシップ基礎）／ Global Leadership Course（GLC-I: Leadership Foundation）」の履修と単位取得、3種類の選択科目のうち2種類の修了、Global Experiences、Global Capstoneプロジェクト、そしてGlobal Leadership Summitでの成果発表が必要です。

必須要素 (Mandatory Components)

Global Leadership Course (GLC-I)

Global Capstone

GLC-II or GLA or GUC

Global Leadership Summit

Global Experiences

GLC-II or GLA or GUC

選択科目 (Elective Courses)

UTokyo × Minerva

UTokyo

MINERVA

東京大学はミネルバ・プロジェクト（ミネルバ大学の姉妹プロジェクト）と連携し、グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC-I、GLC-II）を開講します。これらの科目はForumという、アクティブラーニング、経験学習、そして継続的なフィードバックのためにデザインされたオンラインプラットフォームで提供されます。GLC-I、GLC-IIの各授業科目は、授業で修得したスキルを実生活の中で実践する体験的な課題で締めくくられます。

コアとなるカリキュラム（必須要素）

グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC-I:リーダーシップ基礎）

「グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC-I:リーダーシップ基礎）」では、共感力を兼ね備えたグローバルなリーダーを目指し、多様なメンバーと協力するために必要な基本的能力を身につけます。ミネルバ・プロジェクトとの協働により、すべてのグローバルリーダー育成プログラム科目は、ミネルバ大学が開発したオンライン学習プラットフォーム“Forum”を用いてアクティブラーニング形式で提供されます。

Global Capstoneプロジェクト

Global Capstoneは、GLC-Iでの学びを基礎として、グローバルな課題（SDGs）に関わる（1）Academic Investigationと、（2）Global Experiencesの計画／振り返りに取り組み、グローバルリーダーに必要な素養を身に付けるプログラムです。以下はその構成です。

- ▶学生それぞれの「Global Leadership Portfolio」の作成とブラッシュアップ
- ▶対面・オンラインでのメンターによる学習支援
- ▶参加学生間の相互学習・相互評価

Global Capstoneは、1セメスターの期間で行われます。GLC-Iを履修した学生に対して、GLC-I履修セメスターの終わり頃、Global Capstoneの履修希望の確認が行われます。その回答結果に基づき、メンター教員が割り当てられます。

Global Leadership (Summit)

Summitは、GLP-Iを通じて学んだことを発表する機会です。発表は、例えば以下のような形で行うことができます：

- ・口頭発表
- ・ポスター発表

Summitでは、学生、過去のパログラム参加者、メンター教員、教職員、寄付企業・財団の関係者、その他の協力者を含むGLP関係者全員で、GLP-Iを通じての学びを分かち合います。

Global Experiences

Global Experiencesとして認定されるプログラムの要件は、柔軟に、幅広く定められる予定です。例えば以下のものが含まれます。

- ・グローバル教育センター（GlobE）が提供する短期海外留学プログラム（p13参照）
- ・全学交換留学（USTEP）（p6参照）
- ・所属学部等が提供する留学プログラム（p22参照） など

選択科目（2科目を選択すること）

グローバルリーダー育成プログラム科目（GLC-II）

GLC-IIは以下の科目で構成されます：

- 複雑システム
- 論理と説得
- イノベティブな問題解決

GLC-Iと同様、ミネルバ大学が開発したオンライン学習プラットフォーム“Forum”を用いてアクティブラーニング形式で提供されます。

グローバル教養科目（GLA）

GLAは、持続可能な開発目標（SDGs）にフォーカスする学際的な内容の科目です。授業は少人数のインタラクティブ形式で行われ、留学生とともに、世界の喫緊の課題を議論することができます。（p28参照）

UTokyo Global Unit Courses（GUC）

UTokyo Global Unit Coursesは、グローバル教育センター（GlobE）が東京大学で開催（対面またはオンライン）する海外の学生向けの短期受入プログラムです。世界中の優れた学生を対象に東京大学の教員が全て英語で行う講義を行うこのプログラムには東京大学の学生も参加できます。（p29参照）

GLP-Iへの参加方法

GLP-I参加にはGLC-Iの履修（SまたはAセメスター）が必須です。履修済みのGLAやGUCも、GLP-I修了認定に用いることができます。

GLP-II（TLP）について

GLP-II（TLP）は英語に加えもう一つの言語を学習する機会、その言語でGLAを学ぶ機会を提供し、高度な言語運用能力・文化理解の涵養を目的とするプログラムです。

GLP-Iの詳細はこちら

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/coursesandprograms.html>

page 04

page 05

3. 全学生対象の留学プログラム(1学期～1年)

1) 全学交換留学(USTEP)

概要

東京大学と東京大学の協定校^(※1)が1学期～1年間学生を交換する留学プログラムを交換留学と呼びます。東京大学が授業料を徴収せずに協定校の学生を受け入れる代わりに、東京大学の学生は東京大学に授業料を納めれば、留学先での授業料を支払わずに協定校で授業を履修したり、研究指導を受けたりすることができます。これを大学全体で実施するものが「全学交換留学(USTEP)」であり、各学部・研究科が独自に行うものを「学部・研究科間交換留学」(p22-24参照)と呼びます。全学交換留学へはどの学部・研究科の学生でも応募することが可能です。

※1 東京大学が学生交流覚書を締結している海外大学のこと。

全学交換留学の詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html>

留学時期と募集スケジュール

1学期間あるいは1年間が一般的な留学期間です。実際の詳細な留学期間は留学先の協定校の学事暦(Academic Calendar)^(※2)に基づきます。1年間の留学を希望する場合は、原則として秋学期からの1年間となりますが、春学期が学事暦の1学期目となる大学については、春学期開始の1年間の留学が可能です。

学内募集は年に2回行います。

①秋募集(8～10月頃): 翌年の秋学期留学開始分・翌々年の春学期留学開始分を募集

②春募集(秋募集の翌年の4～6月頃): 翌年の春学期留学開始分を募集^(※3)

※2 海外の大学は一般的に1学期目:秋学期(8～10月開始、12月～翌年1月終了)、2学期目:春学期(1～2月開始、4～5月終了)の2学期制が多いです。また、2026年の秋学期(1学期目)～2027年の春学期(2学期目)という海外大学の1学年(Academic Year)を学内募集では2026-2027年期(AY2026-2027)と呼んでいます。

※3 前年度の秋募集で余った派遣枠および春募集までに加わった新規協定校の派遣枠を募集します。

①評価の高い協定校への留学

東京大学の協定校は世界的に評価の高い教育機関です。事前に多くの情報が得られ、現地でのサポート体制も充実しています。

②留学先の協定校では授業料の支払いが不要

留学先の授業料が不要になる代わりに、東京大学の授業料は納める必要があります(※4)。

③協定校では交換留学生として優遇

宿舍を優先的に確保してもらえたり、留学生用カウンセリングを受けられたり等、特段の配慮をしてもらえるケースがあります。

④留学で取得した単位を互換

協定校で取得した単位が東京大学の単位として認定される可能性があります(※5)。

⑤プログラム付属の奨学金に申請可能(返済不要)

支給額は年度や地域によって異なりますが、月6～10万円ほど支給されます。また、東京大学や民間財団等が募集する他の奨学金への応募も可能です(p38-39参照)。

《主な資格・条件(例)》

- 留学期間を通じて東京大学の正規課程に在学する者。留学期間内に東京大学を卒業・修了する者、東京大学の学部から大学院に進学する者は対象外です。
- 協定校が定める交換留学生の資格・条件を満たす者(語学能力、所属学部・研究科、学年等)。

《選考方法》

①学内選考(書面・面接審査)

書面・面接審査により学内選考を行います。審査では、学業成績・申請書の記述内容や面接等が総合的に考慮されます。

②協定校での審査(書面審査)

学内選考を通過した学生は、協定校が定める申請書類を作成します。東京大学が留学先の協定校へ学生を推薦し、協定校で審査が行われます。協定校での審査を通過すると、留学決定です!

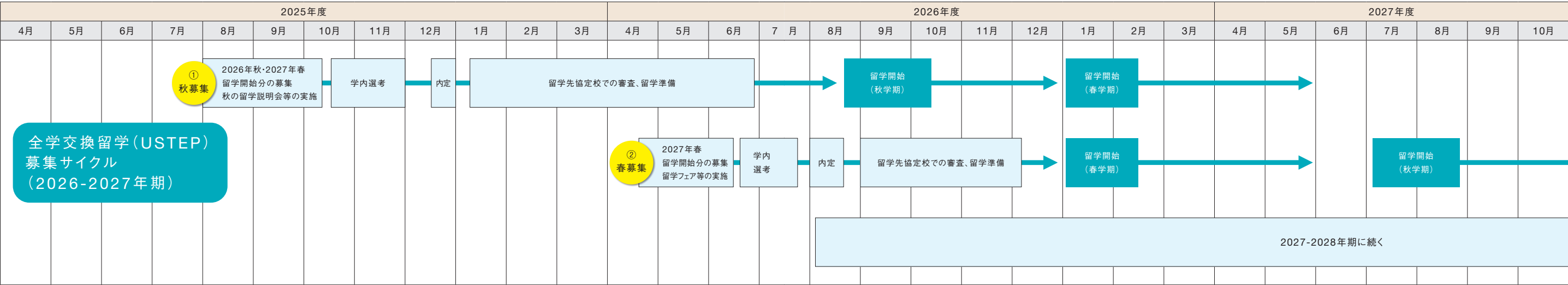
※4 留学期間中の身分は「休学」ではなく「留学」となり、東京大学の授業料を納める必要があります。大学院学生の場合、その活動の実態により「留学」または「研究指導の委託」の手続きを取ることになります。

※5 認定の基準は各学部・研究科により異なり、履修した科目によっては認定されない場合もあります。留学時の所属学部・研究科の担当部署に事前に相談しましょう(p43参照)。

全学交換留学体験記はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>



※本ページの情報は全学交換留学のものであり、学部・研究科間交換留学については、学部・研究科ごとに異なります。

全学交換留学協定校一覧

国・地域	協定校	対象
台湾	国立陽明交通大学	学部/院
台湾	国立台湾大学	学部/院
バングラデシュ	アジア女性大学(AUW)	学部
中国	上海交通大学	学部/院(M)
中国	清華大学	学部/院
中国	浙江大學	学部/院
中国	南開大学	学部/院
中国	南京大學	学部
中国	復旦大学	学部
中国	北京大學	学部/院
香港	香港大学	学部
香港	香港科技大学	学部
インド	O.P.ジन्दアル・グローバル大学	学部
インドネシア	インドネシア大学	学部
インドネシア	ガジヤマダ大学	学部/院(M)
韓国	高麗大学校	学部/院(M)
韓国	ソウル大学校	学部/院
韓国	浦項工科大学校	学部/院
韓国	延世大学校	学部/院
マレーシア	マラヤ大学	学部/院(M)
フィリピン	フィリピン大学	学部/院(M)
シンガポール	シンガポール国立大学	学部
シンガポール	シンガポールマネジメント大学	学部
シンガポール	ナンヤン工科大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ブラジル	サンパウロ大学	学部/院
チリ	チリ大学	学部/院(M)
チリ	チリ・カトリック大学	学部/院(M)
メキシコ	エル・コレヒオ・デ・メヒコ	学部/院
メキシコ	メキシコ国立自治大学	学部/院
イスラエル	エルサレム・ヘブライ大学	学部/院
トルコ	ボアジチ(ボスフォラス)大学	学部/院
南アフリカ	ステレンボッシュ大学	学部/院
カナダ	トロント大学	学部/院
カナダ	ビクトリア大学	学部
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
カナダ	マギル大学	学部
米国	イェール大学	院
米国	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	学部
米国	カリフォルニア大学サンタクルーズ校	学部/院
米国	ジョンズ・ホプキンス大学	学部
米国	スワースモアカレッジ	学部
米国	ノースイースタン大学	学部
米国	ノースウェスタン大学	学部
米国	プリンストン大学(学部)	学部
米国	プリンストン大学(大学院)	院
米国	ワシントン大学	学部
オーストラリア	アデレード大学	学部/院(M)
オーストラリア	オーストラリア国立大学	学部
オーストラリア	クィーンズランド大学	学部/院(M)

※院(M)は修士のみ

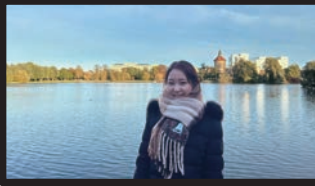
国・地域	協定校	対象
オーストラリア	シドニー大学	学部/院(M)
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	学部/院
オーストラリア	メルボルン大学	学部/院
オーストラリア	モナシュ大学	学部/院(M)
ニュージーランド	オークランド大学	学部/院(M)
ニュージーランド	オタゴ大学	学部/院(M)
デンマーク	コペンハーゲン大学	学部/院(M)
フィンランド	ヘルシンキ大学	学部/院(M)
フランス	エコール・ポリテクニーク	学部/院(M)
フランス	グルノーブル・アルプ大学	学部/院(M)
フランス	EHESS(社会科学高等研究院)	院
フランス	ストラスブール大学	学部/院
フランス	パリ政治学院	学部/院(M)
ドイツ	ケルン大学	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学	学部/院
ドイツ	ボン大学	学部/院(M)
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスミリアン大学	学部/院
アイルランド	トリニティカレッジ・ダブリン	学部/院
アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン	学部/院
イタリア	ローマ大学ラ・サピエンツァ	学部/院
オランダ	フローニンゲン大学	学部/院(M)
オランダ	ライデン大学	学部/院(M)
ロシア	サンクトペテルブルク大学	学部/院
スペイン	マドリード自治大学	学部/院
スウェーデン	ウプサラ大学	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学	学部/院
スウェーデン	ストックホルム大学	学部/院
スウェーデン	ルンド大学	学部/院(M)
スイス	ジュネーヴ大学	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ	学部/院
スイス	チューリッヒ大学	学部/院
英国	ウォーリック大学	学部
英国	エクセター大学	学部
英国	グラスゴー大学	学部/院(M)
英国	サウサンプトン大学	学部
英国	シェフィールド大学	学部
英国	ダラム大学	学部
英国	マンチェスター大学	学部
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	学部/院(M)
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	学部/院(M)
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	学部

※2025年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。※過去の派遣実績等はGo Globalウェブサイト(https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-USTEP.html)に掲載しています。

派遣実績はこちら



全学交換留学 体験記



氏名：宮島 凜さん
所属・学年(留学開始時)：教育学部4年
留学先大学・学部：ストックホルム大学 Department of Education
留学期間：2023年8月～2024年6月(10ヶ月間)

スウェーデンといったらIKEAとミートボールですが、IKEAのフードコートに行けばどちらも楽しめます笑。安くて美味しく、スウェーデン人にも大人気です!私も留学中に何度も行きました!

自分と遠いバックグラウンドを持つ人々との出会い

①留学を決めたきっかけ

中高時代の生徒会活動の経験から、スウェーデンの主権者教育に興味を持っており、ストックホルム大学を希望しました。コロナ禍で留学を諦めていましたが、後悔すると思い、1年卒業を遅らせて留学を決意しました。

②留学先での勉強内容

主に教育系の授業を履修していました。幼児教育、多文化教育、ディスアビリティに関する授業など、留学前の東大での学びと関連させて、様々な角度から教育について探究をすることができました。特に、幼児教育の授業ではいくつかのプリスクールに視察に行く機会があり、現場での実践を見ることができ刺激を受けました。

③留学先を勧める点

ストックホルムは治安が非常に良く、留学生も多いので安心して過ごせました。公用語はスウェーデン語ですが、スウェーデン人は英語を流暢に話すので、日常生活で困る場面はありませんでした。冬の時期は日照時間が短く、寒さも厳しいですが、寮からオーロラが見られるなどスウェーデンならではの経験ができると思います。

英語がとても苦手で留学出願時のTOEFLにとっても苦戦をしたので、留学は正直とても不安でした。実際に留学中は上手くコミュニケーションが取れない自分に落ち込むこともありましたが、徐々に環境にも慣れ、現地で仲良くなった友人とヨーロッパ各国を旅行したり、スウェーデン人の友人にホームパーティーに招いてもらったりと色々な経験をすることができました。また、高校生の時から行っていたと思っていたスウェーデンに足を運び、教育の現場を見ることが、自身の探究テーマを深めることができました。今までの日常とは大きく異なる環境での色々な人との出会いによって、大きく成長したと実感しています。

・家賃/寮費(光熱費含む)	8万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	20万円	
・娯楽費(旅行等含む)	50万円	
・その他(教科書代・保険代等)	10万円	
・奨学金財団からの奨学金	8万円/月	

全学交換留学 体験記



氏名：水谷 友哉さん
所属・学年(留学開始時)：教養学部理科一類2年
留学先大学・学部：ノースイースタン大学 工学部
留学期間：2023年8月～2024年5月(10ヶ月間)

ボストンのおすすめ季節は秋。ボストンでは、紅葉が綺麗で、ハロウィーンにはBeacon Hillと呼ばれる高級住宅街で様々な装飾を楽しめます。友達と行ったのが良い思い出です。

専攻を越えた学びと異文化で築いた深い絆

①留学を決めたきっかけ

高校の時は海外大学に進学したいと考えていたため、東大入学時から留学は検討していました。右も左もわからず何もない状態から、異国の地で人と関係構築できるか、充実した日々を送れるのか試したかったからです。

②留学先での勉強内容

私が前期課程で留学をしようと考えた理由が、専攻に囚われずに米大学のリベラルアーツ教育を受けたかったからだったので、それを意識して授業を選びました。具体的には、パブリックスピーキングの授業から、環境工学、果てには写真の授業まで履修しました。多様な専攻出身の人がお互いに刺激を与える良い環境でした。

③留学先を勧める点

ボストンはアメリカの中だと治安も良く、住環境や交通の便も良く、とても住みやすい街です。また多くの美術館や博物館は大学生だと無料で入場することができ、文化的にも優れた街です。大学の学生も留学生を温かく受け入れてくれたほか、他の留学生も優秀な人が多く、長期的な関係性を築くことができます。

ありきたりですが、留学は価値観が変わります。そして、たいい価値観が変わったことは留学から帰ってきて初めて気づくものです。私の中で一番良い変化だと感じているのは、良い意味で周りからの目を気にしなくなったことです。前までは周りからどう見られているのか気にしていましたが、現地でそれを気にしている人は少なく、変化の起点となりました。また、長期留学の利点として仲良くなった人と長期間一緒にいるので、その後も関係性が続きます。私も、留学から帰ってきてまだ1年経っていませんが、現地の友達複数人と日本や他の国で再会しています。ずっと続けかけがえのない人間関係を築ける点も留学の素晴らしいところだと思います。

・家賃/寮費(光熱費含む)	22万円/月	費用と奨学金
・食費	9万円/月	
・渡航費	40万円	
・娯楽費(旅行等含む)	50万円	
・その他(教科書代・保険代等)	10万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：真柄 星空さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部3年
留学先大学・学部：香港大学 HKU Business School
留学期間：2023年9月～2024年5月（9ヶ月間）

留学中、中国の街へ度々遊びに行って感じた事、中国美味しい。香港含め中国で食べた料理は目から鱗。素晴らしい。食以外でもう一つ。広東語を学ぶべきか？学ぼう。楽しく飲茶をするために。

Another Sky～香港

①留学を決めたきっかけ
馴染みのない海外に飛び出したいという漠然とした強い好奇心を持っていて、それが現実的に叶う準備とタイミングが整っていたため留学に行くことを決めました。

②留学先での勉強内容
留学先の香港が世界最大の金融都市の一つである事実を踏まえ、金融に関わるビジネスや金融地理学、経営財務などの金融財務を中心に勉強しており、また現地語である広東語も学習していました。

③留学先を勧める点
香港大学はグローバルな環境で、多くの国から学生・講師が集まっています。対話形式の授業が多く、他の学生の発言から学ぶ事も多かったです。特に言語の授業は活気があり講師も面白く、クラスメイトとの距離もとても近いです。留学生が集まる立食会や寮の夕食会など、交流の機会がものすごく多いです。

香港は世界中からビジネスや文化を求めて人々が集まる、活気に満ちた街です。日本とは全く違った習慣に驚きましたがすぐに慣れました。そして不思議と、大好きになりました。人々の喧騒の中、飲茶をしながら友達と永遠にお喋りし、意外にも豊富な自然の中でハイキングや日光浴に行く。夜明けまで遊びすぎた後にはまた飲茶で冷静に。素敵な時間です。また香港では人との出会いが多く、人との距離も近いです。人好きにはたまらない街です。そんな香港で約9ヶ月間生活し、学んだことそして巡り合った人々全てが今でも貴重な宝物です。機会をくれた交換留学プログラムには大変感謝を感じています。環境の変化や成長を求めている方にはお勧めします。

・家賃/寮費（光熱費含む）	5万円/月	費用と奨学金
・食費	7万円/月	
・渡航費	7万円	
・娯楽費（旅行等含む）	8万円	
・その他（教科書代・保険代等）	1万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：勝屋 美怜さん
所属・学年（留学開始時）：工学部4年
留学先大学・学部：スウェーデン王立工科大学 Architecture and the Built Environment
留学期間：2023年8月～2024年6月（10ヶ月間）

スウェーデンにはFIKA（コーヒーと軽食で談笑する）の文化があり、説明会等（たまに授業でも!）ことあるごとにコーヒーとシナモンロールを出してくれます!あの中毒性のある味が恋しい、、

第二の世界線を楽しむ

①留学を決めたきっかけ
海外を訪れるのではなく暮らしてみたかったこと、英語を「使う」生活をしてみたかったこと、サークル等であつという間に過ぎた大学生活をなんとなく終わらせる前に一度自分と向き合う時間が欲しかったことなどです。

②留学先での勉強内容
自分の専攻に合わせ都市関連のコースに沿って履修しました。ただ、実学的で日本の内容に特化した東大での授業に比べ、より理論的でヨーロッパやグローバルサウスなど広い視点をもつことが多く、初めて学ぶことが多かったです。他にもスウェーデンの文化の授業や、専攻に捉われず様々な話題でのセミナー等にも参加しました。

③留学先を勧める点
公用語はスウェーデン語ですが英語の水準が非常に高く、気質が日本人に似ていて、基本的に治安が良く、多様な国の人が共存していて、美しい自然のすぐそばで快適な生活を送れるなど、ヨーロッパの中でも暮らしやすい国の一つではないかと思います。暑くない夏も高緯度地域ならではの太陽に振り回される冬もおすすめです!笑

多くの経験と出会いがあったことはもちろんですが、交換留学はこれまでの人生と人も場所も環境も切り離された、ある意味第二の世界線のようなものだったと感じています。どんな出来事も「留学」の一部として肯定でき、期待も失敗もないから自由に好きなだけやってみようと心から思えたことが有意義で、そのおかげで今までと全く違うexcitingな1年を過ごせました。おまけに今後の人生や自分の価値観への影響、帰国後も続く友達とのつながりももたらしてくれています。前述のきっかけは後付けで実際は留学体験記の「少しでも迷っている人はぜひ」という言葉に後押しされた勢いでした。少しでも気になっている人はぜひ挑戦してみてください!

・家賃/寮費（光熱費含む）	10万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	25万円	
・娯楽費（旅行等含む）	80万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：尾堂 明日香さん
所属・学年（留学開始時）：文学部3年
留学先大学・学部：ウォーリック大学 Department of Psychology
留学期間：2023年9月～2023年12月（4ヶ月間）

留学生の友達と訪れた冬のエディンバラが忘れられません。街全体が、歴史ある建物から漂う上品で重厚な雰囲気です。統一されており、どの瞬間も非日常的でタイムスリップしたような感覚でした。

冒険の先に第2の故郷を得ました

①留学を決めたきっかけ
海外での仕事に興味があり、言語や生活の点で生き抜けるか実際に挑戦したいと検討していました。2年次に留学経験者の方と話し、新たな環境に飛び込むハードルは低く設定して良いことに気づき、留学を決意しました。

②留学先での勉強内容
専攻の社会心理学を中心に履修しました。全授業が1週間のうち講義と議論の各1コマで構成されており、初めは議論で存在感を示すのに苦労しました。特に、ビジネスの現場における、社会心理学的現象の活用方法をロールプレイングや実地調査で学ぶ授業が印象的でした。

③留学先を勧める点
レストランやバーなど、大学内で一通りのレジャーが楽しめます。また、学内の学生寮は留学生と現地生関係なく割り振られるため、幅広い交友関係が築けます。自分のように1学期だけの留学生も多く、流動的な人間関係に開放的な環境でした。ロンドン等の有名都市へのアクセスも良く、国内旅行に行きやすいと思います。

3ヶ月という短い留学期間だからこそ1秒でも無駄にしないよう、留学でしか経験できない価値を求め常に活動的であれたのは良かったです。現地での様々な経験から、無意識に行動の模範解答を求めている自分に気づき、もう少し自由に生きてもいいと意識できたのは大きな発見でした。このように自分と向き合う機会が多く、その度に多くの友達に助けられました。その点で、イギリスは私にとって優しさで溢れた場所で、今は第2の故郷だと思っています。また、国レベルの移動ハードルが低くなり、海外で仕事する自分のイメージが湧きました。留学は挑戦する価値があります。不安は大きいかもしれませんが、想定以上の学びが得られると思います!

・家賃/寮費（光熱費含む）	8万円/月	費用と奨学金
・食費	6万円/月	
・渡航費	30万円	
・娯楽費（旅行等含む）	40万円	
・その他（教科書代・保険代等）	3万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：小林 拓心さん
所属・学年（留学開始時）：経済学部4年
留学先大学・学部：ニューサウスウェールズ大学 ビジネススクール
留学期間：2023年9月～2024年8月（11ヶ月間）

先日、テニスクラブと一緒にコーチとして働いていた同僚と日本で再会しました。日本は海外ではとても人気な観光先なので、海外にたくさん友達を作ればこのような感動の再会もたくさん果たせると思います!

多様性の都市・シドニーで知った世界の広さ

①留学を決めたきっかけ
時間がある大学生活のうちに一度は海外での長期生活をして、海外に対する解像度を高めたいという思いからでした。ゼミの先生や家族の後押しもあり、決断に至ることができました。

②留学先での勉強内容
私は組織経営に関心があり、またオーストラリアは非常に多様性に富んだ人が集まる国なので、多文化組織のマネジメントに関する授業を履修していました。授業の内容はもちろんですが、様々な国から来ている学生と、組織の在り方についてディスカッションする時が最も発見が多くて貴重な時間でした。

③留学先を勧める点
シドニーは留学先にうってつけだと思います。なぜなら、とにかく住む人の国籍がバラバラで、日本とは全く違うダイバーシティを体感できるからです。また、シドニーは都会でありつつもビーチなどの大自然との距離が近いのも大きな魅力です。これだけ都会と自然が融合した都市はなかなかないと思います。

私の留学生生活を振り返ると、ハイライトは現地のテニスクラブでテニスコーチとして様々なお客様のテニスの指導に携わったことでした。言葉も文化も違う人にテニスを教えることは一筋縄ではいきませんでした。それでも試行錯誤を重ね、お客様のテニスの上達に貢献できた時の喜びはその分非常に大きかったです。何よりも、自分がこれまでの15年間取り組み続けてきたテニスが、海外で1つの仕事として価値を持ち、人のためになることが一番の達成感でした。このような経験、感覚はやはり留学でしか得られないものなのだと思います。大学生のうちにぐっと価値観が広がるあの感覚は経験しておいて絶対に損はないので、色々な人に挑戦してほしいです。

・家賃/寮費（光熱費含む）	16万円/月	費用と奨学金
・食費	3万円/月	
・渡航費	20万円	
・娯楽費（旅行等含む）	45万円	
・その他（教科書代・保険代等）	10万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	

2) 学期単位のプログラム

UC派遣プログラム

米国カリフォルニア大学(UC)バークレー校およびデービス校の2校との協力により、東京大学の学生を1学期～1年派遣する留学プログラムです。バークレー校のAmerican and International Study Program (AISP)ではアメリカ政治と国際関係の授業を履修します。デービス校のGlobal Study Program(GSP)ではデービス校で開講されているほぼすべての授業を履修することができ、また、語学コースも実施されています。交換留学以外の方法で長期の留学が可能なプログラムです。基本的に授業料等の費用はすべて自己負担となりますが、東京大学や民間財団の留学用の奨学金に応募することもできます。

対象学生	実施時期		募集時期
	UCバークレー校	UCデービス校	
学部／院	Fall Semester：8～12月 Spring Semester：1～5月	Fall Quarter：9～12月 Winter Quarter：1～3月 Spring Quarter：4～6月	3～4月上旬頃

詳細はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-UC.html>



4. 全学生対象の短期プログラム(1ヶ月前後)

概要

- ・世界中の大学で1ヶ月前後の短期のプログラムが実施されており、プログラムによって費用・行先・内容も様々です。
- ・プログラムによっては参加費が安いものもあり、本学学生向けに奨学金や参加費支援、割引等の制度がある場合もあります。
- ・短期プログラムに参加した学生からは「自分の語学力を把握できた」「積極的なディスカッションの面白さを知った」「大切な友人が世界にできた」「将来の長期の留学のイメージがつかめた」等の声があり、将来の成長に繋がる収穫を得ることができます。
- ・短期プログラムは募集期間が短く締切が早いものも多いため、TOEFL・IELTS等を予め受験しスコアを所持しておく、参加可能なプログラムの選択肢が広がります。

1) グローバル教育センター担当の短期プログラム

グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム

- ・東京大学が海外の協定校と連携して、東京大学の学生のために実施する、または協定校の既存のプログラムをカスタマイズして実施するプログラムです。内容はプログラムにより講義(語学または特定テーマ)、フィールドワーク、現地学生との交流、文化体験等様々です。
- ・基本的に本学学生や日本の他大学の学生が集団で参加するプログラムです。日本人の少ない環境で海外の学生と共に参加するプログラムは、p15の直接応募の短期プログラム(海外大学等主催の短期プログラム)を参照してください。
- ・サマープログラムは夏季休業期間中に実施され、募集時期は4～5月、5月下旬頃に学内応募締切、6～7月頃に学内選考と留学開始までの手続きを行います。
- ・ウインタープログラムは春季休業期間中に実施され、募集時期は10月、11月初旬頃に学内応募締切、11～12月頃に学内選考と留学開始までの手続きを行います。



グローバル教育センター担当サマー・ウインタープログラム一覧

この一覧は近年開催したプログラムの募集要項に掲載した情報をもとに作成しています。
各プログラムについて、下記の一覧やGo Global ウェブサイトにある過去のプログラム情報および最新情報を参考に参加を検討してください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short.html>



プログラム名		開催地	期間	プログラム費用 (航空賃、食費等は別途自己負担)	募集人数	備考
サマープログラム	シェフィールド大学	英国	4週間	1,700ポンド程度 (宿泊費別)	45名程度	語学研修＋講義＋ホームステイ等
	ウォーリック大学	英国	4週間	2,950ポンド程度	40名程度	語学研修＋ホームステイ等
	チュラロンコン大学	タイ	2週間	16万円程度	30名程度	文化体験＋講義等
	キングモンクット工科大学 トンブリー校	タイ	2週間	23万円程度	30名程度	文化体験＋企業視察＋講義等
ウインタープログラム	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	米国	2週間	3,950米ドル程度	40名程度	講義＋フィールドワーク等
	アデレード大学	オーストラリア	3週間	4,760豪ドル程度	45名程度	語学研修＋講義聴講＋ホームステイ等
	オタゴ大学	ニュージーランド	4週間	4,498NZドル程度	30名程度	語学研修＋講義聴講＋ホームステイ等
	パリ政治学院	フランス	4週間	2,600ユーロ程度 (宿泊費別)	25名程度	講義＋文化体験等
	浙江大学	中国	2週間	10万円程度	40名程度	中国語講座＋文化体験＋学生交流等

東京大学が参加する大学連合等が主催するプログラム

大学連合	概要
IARU (International Alliance of Research Universities 国際研究型大学連合)	将来の世界的リーダーを養成するトップクラスの11大学による、教育研究における連携推進を目的とした大学連合として2006年に設立。加盟する世界トップレベル11大学で短期留学プログラムが開催されています。本学学生は直接申し込みを行います。 【加盟大学】 オーストラリア国立大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、北京大学、ケープタウン大学、カリフォルニア大学バークレー校、ケンブリッジ大学、コペンハーゲン大学、オックスフォード大学、イエール大学、東京大学
AUA (Asian Universities Alliance アジア大学連盟)	アジアの国・地域を代表する15大学で構成され、加盟大学間の連携強化を通じて、地域・世界の重要な諸課題に取り組むことを目的とし2017年に設立された大学連合です。通年を通してプログラムの募集があり、直接応募する場合と大学を通じて応募する場合があります。参加費の支援や割引がある場合が多く魅力的です。 【加盟大学】 清華大学、北京大学、香港科学技術大学、ソウル大学校、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、インドネシア大学、マラヤ大学、コロボ大学、キングサウド大学、ナザルバエフ大学、ヤンゴン大学、アラブ首長国エミレーツ大学、IIT ボンベイ、東京大学

2) 直接応募の短期プログラム

概要

- ・世界各国からの学生と共に参加する留学プログラムです。
 - ・世界の大学生は、休暇中に主催機関に直接応募し短期プログラムに参加することが一般的です。自分で手続きを行うことでエージェン特等に支払う手数料が不要となり参加費が抑えられ、判断力・行動力が身につくほか、語学力の向上にも役立ち、現地の教育制度や文化への理解も高まります。
 - ・東京大学の協定校が主催すること、優秀な本学学生に参加してもらいたいなどの理由から、東京大学の学生向けの割引や参加費補助があることもあります。
- (奨学金)

直接応募のプログラムに参加する場合、条件を満たせば、「東京大学海外派遣奨学事業 短期・超短期海外留学等奨学金」などの奨学金への応募が可能です。

(注意事項)
応募前に、留学時に所属する学部・研究科等の担当部署にて海外渡航にあたって学内で必要な手続き等をよく確認しておくことも重要になります。Go Globalウェブサイトの「渡航の準備」のページを参考に、渡航準備を進めてください。

最新情報はこちら

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-directapply.html>



海外大学等主催の短期プログラム

プログラム名	開催地	時期	プログラム費用 (授業料・宿泊費)	募集時期
東京大学の協定校等が実施するプログラム	Berkeley Summer Sessions	米国	5～8月の3～10週間	コースにより異なる
		カリフォルニア大学バークレー校 (UCバークレー) が実施するサマーセッション。毎年夏に、5つの異なる期間のセッションで、600を超える多様な分野の授業が開講されます。受講学生の多くはUCバークレーの学生ですが、全米および世界各地からも3,000名を超える学生を受け入れています。		
	UCL Summer School	英国	Session1:6～7月の3週間 Session2:7～8月の3週間	2,850ポンド～
		ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) が実施する世界50ヶ国からの学生が参加するサマースクール。アカデミックな講義を受講でき、14の分野から60以上のモジュールがあります。		
	UCL Summer English Course	英国	8月の3週間	1,875ポンド
		主に学部生を対象とした、英国ロンドンでの生活を楽しみながら、英語スキルの向上を目指すプログラムです。話す、聞く、読む、書くスキルを、アクティビティを通じて学び、特にコミュニケーション能力の向上に重点を置いています。		
	Deutschkurse- Learn German in Munich	ドイツ	8月の3週間程度	1,177ユーロ程度
		ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学 (LMU) が提供する3週間のドイツ語集中コース。文化体験も含まれ、修了した学生にはLMUの単位 (ECTS) が付与されます。		

※これ以外にも多くのプログラムがあり、最新情報はGo Global ウェブサイトに掲載していますので、ご確認ください。

- 北米:Yale Summer Session (イエール大学)、Visiting International Students Program (カリフォルニア大学サンタクルーズ校)、Vancouver Summer Program (ブリティッシュコロンビア大学)、Summer Language and Culture (ビクトリア大学)
- 南米:Spanish Courses (メキシコ国立自治大学)、Spanish in Chile (チリ・カトリック大学)
- オセアニア:University of Adelaide Winter School (アデレード大学)
- アジア:Plus Academy Summer/Spring+ Programs (国立台湾大学)、GEM Trailblazer (ナンヤン工科大学)、Yonsei International Summer School (延世大学)、International Summer Campus (高麗大学)、Fudan International Summer School (復旦大学)、The University of Hong Kong Summer Institute (香港大学)、HKUST Summer School (香港大学)、Global Summer School (上海交通大学)
- ヨーロッパ:Warwick Summer School (ウォーリック大学)、Southampton Summer School (サウザンプトン大学)、International Summer School (グラスゴー大学)、European Summer School (ストラスブール大学)、ETH Summer projects/ETH Summer School (スイス工科大学チューリッヒ)、UZH International Summer Schools (チューリッヒ大学)、Geneva Summer Schools (ジュネーブ大学)、Cologne Summer School (ケルン大学)、Freie Universität Berlin International Summer and Winter University (ベルリン自由大学)、Leiden Summer Schools (ライデン大学)



氏名：小原 健太さん
所属学部・研究科、学年(プログラム参加時)：理学部4年
主催大学(協定校)名：インド工科大学ボンベイ校
プログラム名：AUA-IIT Bombay Overseas Study Program
留学期間：2024年6月(1週間)

キャンパス内のゲストハウスに宿泊し、バランスの良いごはんを毎日食べることができました。カレーは常に3、4種類あり、外国人向けに辛さ控えめでとても美味しかったです。

短期プログラム 体験記

五感でインドを感じる

①プログラムを選んだきっかけ

以前からインドに興味があり、一度訪れてみたいと考えていました。そんな折、プログラムの案内が届きました。さらに、私の専攻である気象学に関連していたため、これは絶好の機会だと思い応募しました。

②プログラムの内容

気象学の基礎事項や、インドに大きな影響を与えるモンスーンについて学びました。午前中はオムニバス形式で講義を受け、午後は簡単なデータ解析を体験しました。授業間にはコーヒープレイクの時間もありました。

③プログラムを勧める点

アジアのトップレベルの学生たちと授業内外で交流することができます。彼らは隣国の情勢にも詳しいため、様々な話題について意見を交わすことができますし、高い意欲を持って学習している様子に感化されます。

安全な宿泊施設と美味しい食事を提供して頂き、アジアの活力あふれる学生たちと交流する貴重な機会でした。自分の英語力の不足を感じる場面は度もありましたが、その度に他の学生やインドの先生方は親切に助けてくれました。最終日のプレゼンでは、自国の気象データの解析結果を発表しました。それぞれのスライドや話し方にも個性があり興味深かったです。また、ひとたび街に出ると、そこはまるで別世界のようでした。人々の活気、途切れることのない車の音、食材の強烈な香りに圧倒されました。決して衛生的とは言えない環境でしたが、そこが人の生きている場所なのだと五感すべてで実感し、沢山の思いが湧き上がってきました。自力でインドに行くのはかなり勇気が必要なので、比較的安心して過ごせる環境を整えて頂いたことに感謝しています。

・渡航費	9万円	プログラム中の費用
・プログラム費(宿泊費を除く)	0万円	
・宿泊費	0万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	1万円	



氏名：中島 怜那さん
所属学部・研究科、学年(プログラム参加時)：工学部4年
主催大学(協定校)名：シンガポール国立大学(NUS)
プログラム名：2024 NUS Young Fellowship Programme
留学期間：2024年6月～7月(対面5日間、オンライン1ヶ月間)

東南アジアだけど東アジア・南アジアの影響も強い。加えて英語で、欧米の文化も入り混じっているシンガポールは面白い国でした。普段なかなか出会えないASEANの学生との交流も素敵でした。

短期プログラム 体験記

グローバルハブとしての地位を築く、シンガポールへ

①プログラムを選んだきっかけ

元々アジアの中心として躍進を続けるシンガポールという国に強い興味がありました。その中でも特にNUSはQS世界大学ランキング8位で、そこで受けられる生成AI関連のプログラムの内容に期待していました。

②プログラムの内容

テーマは「生成AIが博士号の研究に与える影響」。対面では、生成AIの概要やワークショップ、研究紹介の講義を受けました。グループワークも並行して行われ、最終発表を1ヶ月後にオンラインで行いました。

③プログラムを勧める点

プログラムに組み込まれた一つ一つの企画の質が高く、学びの多い5日間でした。また、NUSの学生や教授陣、そしてASEANを中心とした各国からの優秀な同期とのコネクションは、今後にも生きてくると思います。

シンガポールはビジネスや金融、テクノロジーなどのあらゆる面においてアジアのハブとして急速に成長を続けている国です。今回のプログラムは対面では5日間と短かったですが、それでもその雰囲気や直に感じることができました。プログラム中は生成AIに関する講義やワークショップ、グループワーク以外にも、研究室やキャンパスのツアー、街中の観光もすることができました。研究室やキャンパスのツアーでは、NUSを始めとし、シンガポールがどれだけ最先端領域の研究やイノベーション、環境問題などの現代の社会問題に真剣に投資しているかが分かりました。また、NUSの院・博士進学に関する説明セッションがある上、5日間キャンパスや寮で過ごすことになるので、今後の進路としてNUSが少しでも気になる学生には強くおすすめできます。

・渡航費	5.3万円/月	プログラム中の費用
・プログラム費(宿泊費を除く)	0万円/月	
・宿泊費	0万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	3.3万円	
・プログラム付属の奨学金	9.2万円/月	



氏名：清水 優さん
所属学部・研究科、学年(プログラム参加時)：文学部3年
主催大学(協定校)名：シェフィールド大学
プログラム名：シェフィールド大学サマープログラム
留学期間：2024年8月(1ヶ月間)

王室領の離島・マン島を訪れた折、島の最高峰で濃霧と強い北風に見舞われ、絶景が拝めず一人寒さに震えたのは良い思い出です。アジア人客がほばいない土地での滞在というのも新鮮な経験でした。

短期プログラム 体験記

人を愛し、街を愛し、その先に見えたもの

①プログラムを選んだきっかけ

3年生の夏、人生の岐路に立つ中で、あえて就活に縛られず新たなことに挑戦したいと考えていました。英語への苦手意識がありましたが、欧州の都市に興味があり、更に学科の先輩に背中を押され、渡航を決心しました。

②プログラムの内容

午前はレベル別の語学クラスで、発話・交流を中心に英語運用能力を高めます。午後は多種多様な分野の先生方による、東大生向けのオムニバス講義を受けました。後鳥羽上皇の詩についての研究が特に興味深かったです。

③プログラムを勧める点

大学のサポートが充実しており、英語の丁寧な指導は勿論、放課後に図書館や体育館も利用できました。治安が良く、物価もそこそこ、更に涼しく快適な気候で、初めて・久々の海外生活を送るには最適な街だと考えます。

放課後や週末の自由時間が豊富にあり、人とも街とも触れ合うことのできた1ヶ月でした。慣れない寮生活の中で、友人と共に買い出し・料理・洗濯に取り組んだことは大きな糧となっており、彼ら彼女らとの交流が帰国後も続いているのは有難い限りです。また、私は街歩きが好きで、放課後にはシェフィールドの街へ、週末には英国の様々な都市へ、更に延長戦で仏国へと繰り出しました。自分の足で訪ね歩き、現地の方の目線に立つことで見えてきた、民族による棲み分けの実態、最先端の再開発事例などは、物見遊山では味わえないと思います。現地での積極性が、語学力に加え滞在の充実度に直結すると感じました。時が経つにつれ、望郷の念と共に日々関わってくださる人々の温かさを改めて意識し、皆様の恩に報いるべく勉学に励もうという思いを強くしました。

・渡航費	21万円/月	プログラム中の費用
・プログラム費(宿泊費を除く)	33万円/月	
・宿泊費	13万円	
・その他(娯楽費・保険代等)	24万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：田中 咲絵さん
所属学部・研究科、学年(プログラム参加時)：教養学部理科二類1年
主催大学(協定校)名：ウォーリック大学
プログラム名：ウォーリック大学サマープログラム
留学期間：2024年8月(1ヶ月間)

本場のアフタヌーンティーは最高でした!下の段のお皿から順にサンドイッチ、スコーン、ケーキが置かれています。スコーンにはジャムとクリームを塗ります。日本に帰っても食べたくまりました!

短期プログラム 体験記

真夏の大冒険

①プログラムを選んだきっかけ

英語しか通じない環境に身を置いてみたくて、海外経験が少ない学生向けのこのプログラムを選びました。ホームステイができるので、現地の文化も知れるし英語を話す機会も増えると思い、決め手になりました。

②プログラムの内容

大学に通って英語学習の方法や英国の文化等についての授業を受けます。毎週末曜午後と土曜日は、ロンドンやオックスフォードへの旅行が企画されていました。自由時間は、同じ大学の仲間と旅行したりしました。

③プログラムを勧める点

海外経験が少なく、英語で生活する経験をしてみたい人にぴったりのプログラムだと思います。サポート体制が充実していながら、とても刺激的な経験をすることができます。英語を話すことへの抵抗がなくなります。

海外は愚か日本でも親元から離れて暮らしたことの無かった私がいきなり英国で1ヶ月間暮らすのは、本当に刺激的でした。最初の数日間は毎日のように迷子になり、ドキドキの日々でしたが、最後には何とかなりました。気候や日の長さ、交差点や建物、食事等あらゆるものが日本とは違っていて、新鮮で感動すると共に文化の違いの背景にも興味が湧きました。ホストマザーさんとは、一緒にスコーンや巻き寿司を作ったりして楽しみました。ホストマザーさんとの会話に最初は不安がありましたが、会ってみると私が理解できなかったときは繰り返しゆっくり話してくれたり、単語のスベルを言ったりしてくれて、たくさん話することができました。私の方でも、違う言い方に言い換えるなどの工夫をして、コミュニケーション力をつけることができたと思います。

・渡航費	31万円/月	プログラム中の費用
・プログラム費(宿泊費を含む)	60万円/月	
・その他(娯楽費・保険代等)	20万円	
・プログラム付属の奨学金	8万円/月	



氏名：下村 奈央さん
所属学部・研究科、学年（プログラム参加時）：教養学部文科二類1年
主催大学（協定校）名：チュラロンコン大学
プログラム名：チュラロンコン大学サマープログラム
留学期間：2024年8月（2週間）

タイ料理が思った以上に美味しく、2週間毎日食べていても飽きないほどでした。特に学食は安い上に様々な種類からオリジナルにアレンジすることができ、絶品だったためたまに恋しくなります。

短期プログラム 体験記

驚きと感動の連続となった、かけがえのない2週間

①プログラムを選んだきっかけ

大学生になったら海外留学に挑戦したいと考えており、まずは短期かつ安価なプログラムに参加したいと思い探していたところ、タイ文化の体験等内容も魅力的な本プログラムを見つけ参加を決めました。

②プログラムの内容

大学で講義を受けたり、タイ舞踊や料理作りを実際に体験したりしました。特にタイにおける仏教思想の授業が興味深く、実際に寺院を観光する際に発見が多くありました。最終日はタイと日本に関する発表を行いました。

③プログラムを勧める点

異国の地で過ごすことで日本という国を見つめ直すことができ、座学では味わうことのできない貴重な経験ができました。また学部も学年も異なる様々な人々と交流することができ、刺激を大いに受けることができました。

プログラム中の週末には小旅行として仏教寺院や博物館、リゾート地等を巡りました。特にローカルな場所でココナッツの収穫から加工過程までを見学に行ったのは自分にとって衝撃的でした。現地の人が素手で木に登りココナッツを収穫しているのを見て、何か東南アジアらしさを感じたのを覚えています。大学がバンコク中心部にあったため、ショッピングセンターにも何度も訪れたのですが、日本のチェーン店や日本料理屋が多くあったことも印象的です。物理的距離は遠いものの、タイと日本の2国間の関係性の深さが垣間見れました。日本国内には気づくことのできない発見が多々あり、自身の視野が広がったような気がします。帰国後はタイ語に敏感になったのか、身の回りの生活がタイで溢れていることに気づきました。

・渡航費	12万円/月	プログラム中の費用
・プログラム費（宿泊費を含む）	13万円/月	
・その他（娯楽費・保険代等）	4万円	
・プログラム付属の奨学金	7万円/月	



氏名：齋藤 大地さん
所属学部・研究科、学年（プログラム参加時）：教養学部理科一類1年
主催大学（協定校）名：キングモンクット工科大学トンブリ校
プログラム名：キングモンクット工科大学トンブリ校サマープログラム
留学期間：2024年8～9月（2週間）

皆さんはタイ料理を食べたことはありますか。タイで本場のガバオを食べたら、辛さで涙が出ました。でもスパイスの調整に慣れたら日本食とは違う魅力を感じられます。楽しんでみてください！

短期プログラム 体験記

視野がグッと広がる2週間

①プログラムを選んだきっかけ

プログラムの内容に興味があったことと、短期間で行ける点が魅力的でした。留学フェアの担当者に、このプログラムはタイの大学生との交流が深く満足度が高いと教えていただき、参加したいと思いました。

②プログラムの内容

ビジネスと持続可能性に関連する授業とフィールドワークが充実しています。幅広い業種の企業・工場、アユタヤや泰緬鉄道記念館などを訪れ、時には象とふれあい、タイと環境と文化などを深く学ぶことができます。

③プログラムを勧める点

現地のスタッフさんからのサポートが手厚い点と、スタッフさんやバディと個人的に仲良くなれる点でおすすめです。おかげで非英語圏にも関わらず交流や活動を満喫できます。初めての海外体験に最適だと思います。

海外経験や留学をすると、思いがけない発見や視野が広がる経験をすると思います。私は海外を見てみたいという思いで参加を決めましたが、それだけではなく、ビジネスモデルなどについても見識が深まりました。このプログラムは特にフィールドワークや企業訪問が充実しており、いろいろな学びができると思います。様々な理念を持ったビジネスモデルや、陸地後退などの実際の環境問題を自分の目で見て学べると思います。また、参加者の学年は学部1年から修士2年までと広がったので、日本人の中でも交流が深まる点とストレスフリーな環境も魅力です。それにも関わらず、タイ人のスタッフさんやバディはとてもフレンドリーで、話す機会も多いので、英語を鍛える気持ちさえあればかなり英語を使うことができます。本当によい経験になりました。

・渡航費	10万円	プログラム中の費用
・プログラム費（宿泊費含む）	23万円	
・その他（娯楽費・保険代等）	4万円	

5. 全学生対象の体験活動・インターンシップ

1) 体験活動プログラム

体験活動プログラムは、学部学生および大学院学生のみなさんがこれまでの生活と異なる文化・価値観に触れ、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることをねらいとしています。

フィールドは海外で働くOB・OG訪問等の国際交流体験、院内学級における学習支援等のボランティア、北海道の農場・牧場作業等の農林水産業や地域体験、学内研究室での研究体験等、多岐にわたっています。海外で実施する体験活動プログラムの多くは、夏季・春季休業期間を中心に、1週間～1ヶ月程度活動を行い、みなさんの活動を支援するために交通費および宿泊費の一部をサポートする奨励金を支給します。自由な時間を利用して、積極的に参加してください。

今年度実施するプログラム、過去に行われたプログラムの報告書については体験活動プログラムのウェブサイトをご参照ください

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>



国際交流 2024年度体験活動プログラム一覧

主な活動場所	時期	期間	プログラム名称
アラブ首長国連邦・アブダビ首長国・ドバイ首長国	9月	11日	アラブ首長国連邦の「いま」
サウジアラビア（リヤド）	2月	10日	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動
米国（ニューヨーク市内及びその周辺）	8月	5日	ニューヨークで働くこと
米国（サンフランシスコ）	8月	7日	スタンフォード大学とシリコンバレー体験訪問
インド（デリー、ヴァラナシ他）	9月	7日	インドに向けて日本の魅力を発信一日印学術交流推進活動サポートと学生交流
シンガポール	8～9月	9日	シンガポールでビジネスを学んでみよう
英国（ロンドンおよび近郊）	2月	5日	英国ロンドン、海外で働くとは
ベトナム（ハノイ、ホーチミン）	8月	6日または12日	ベトナムを知れば、日本の将来が見えてくる！～ベトナムの学生・企業等との交流～
中国（北京、上海）	3月	10日	中国訪問＋キャンパスツアーと学生交流
台湾（台北、台南、高雄、屏東）	9月	10日	台湾を知る、台湾近代史へのご招待
オーストラリア（シドニー、メルボルン）	8月	7日	シドニーとメルボルンでビジネスを学んでみよう
イタリア（フィレンツェ）	9月	9日	芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ
スイス（ジュネーブ、チューリヒ等）	9月	5日	スイスにある国際機関、研究機関、企業等を知る
ケニア（ナイロビ、キスumu、ロイトキトク等）	9月	10日	ケニアスタディーツアー ～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～
フィリピン（マニラおよびその近郊）	2月	5日	フィリピンで国際協力を考える～新興国におけるビジネス・政策の現場を訪ねる

※上記プログラムは2024年11月時点のもので、実施調整中のものもあります。また2025年度は実施しないプログラム、上記に記載のないプログラムもありますので、必ず学内説明会、およびウェブサイトで最新情報を確認してください。
※体験活動プログラムは国際交流体験だけではなく、ボランティア、就労体験、農林水産業・地域体験、フィールドワーク、研究室体験等、さまざまな活動を含みます。上記表は国際交流体験のみの抜粋です。



①ニューヨークで働くこと（米国） ②アラブ首長国連邦の「いま」を体験
③ハーバード大学医学部研究室訪問 ④ベトナムの学生・企業等との交流

※学生の所属は、活動当時のものです。

体験活動プログラム参加者の声

在ケニア日本大使館や、日本人の方が運営されるNGOによって設立された学校と職業訓練所、多くの動物が生息する国立公園、紅茶農園や工場などを訪問しました。現地の学生や、伝統的な暮らしを営む人々、またケニアに住む日本人の方々との交流を通じて、ケニアという国を教育、産業、外交といった多角的な視点から学ぶことができました。ケニアの文化や社会の多様性を理解し、そして魅力を感じることができる大変貴重なプログラムでした。



ケニアスタディーツアー
～リアルなアフリカを学び楽しみ考える～
経済学部経営学科4年
大野 未来さん

2) 協創企業等との人材育成プログラム【UGIP】【UCOP】

東京大学と協創協定等を締結した企業等と実施する体験型の教育プログラムです。協創企業等の海外拠点に学生を受け入れるUTokyo Global Internship Program (UGIP)と、国内拠点に学生を受け入れるUTokyo CO-creation Program (UCOP)を実施しています。

【応募資格(抜粋)】学部または大学院修士課程の学生

○UTokyo Global Internship Program (UGIP・ユージップ)

2019年度、世界で活躍できるグローバル人材の育成のため、ビジネスの最前線を体感できるプログラムとしてスタートしました。2024年度現在、東京大学と産学協創協定を締結しているダイキン工業(株)、ソフトバンク(株)、(株)クボタの3社が受け入れ先となっています。

○UTokyo CO-creation Program (UCOP・ユーコープ)

協創企業等とのビジョンに沿った課題解決と人材育成のため、日本国内で活動をするプログラムです。2024年度現在、東京大学と産学協創協定を締結している住友林業(株)が受け入れ先となっています。

参加者への経済的支援

○ダイキン工業(株)企画及び(株)クボタ企画
海外現地活動における航空券、宿泊ホテル代は受け入れ先が全額負担。食事代や交通費は活動日数に応じ一定額を支給。

○ソフトバンク(株)企画
ハッカソン企画における上位入賞者の海外渡航費について、航空券、宿泊ホテル代は受け入れ先が全額負担。

○住友林業(株)企画
国内現地活動のための航空券、宿泊代は受け入れ先が全額負担。その他、現地活動期間中につき食費相当の補助費を支給。

各企画内容や、経済的支援内容については、年度ごとに変更される場合があります。
事前説明会やウェブサイトにて、今年度実施するプログラムや最新情報を確認してください。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/ugip.html>



ショールームや工場にてダイキンの空調製品を学び考察
(写真は北米・ニューヨーク)



2023年度企画上位入賞者のグローバル・インターンシップ
(@Aurangabad, India)

①【UGIP】ダイキン工業(株)企画

Global Business Experience by DAIKIN

世界175カ国に展開するグローバルNo.1空調メーカー“ダイキン工業”の海外拠点に身を投じ、激変するグローバルビジネスを経験。2019年度から始まった企画で、2024年度は<北米滞在型><アジア滞在型>の2テーマの課題に対して、国内の事前学習で仮説を構築。海外現地では、ダイキン工業の役員や現地社員との対話、研究開発拠点や工場の見学、消費者へのインタビュー調査等、現地のリアルを体感し仮説を再検討。プログラムの最後には東京大学における最終報告会で、ビジネス提案と“グローバル人材”の認識について発表しました。

②【UGIP】ソフトバンク(株)企画

生成AIを活用した未来のライフスタイルを考えよう!

勉強会・交流会・データハッカソン

AI人材の育成を目的として、データ・ハッカソンやその準備のための勉強会、交流会を開催しています。ハッカソンでは、社会課題解決のためにAIを活用したサービスやビジネスアイデアをチームで考案し、プロトタイプを作成した上で英語で発表します(上位入賞者はグローバル・インターンシップへ無料招待)。2021年度から始まった企画で、2023年度の上位入賞者は、Findability Sciences Inc.のインド拠点でインターンシップを行い、現地の大学生と交流しつつ、大規模言語モデル(LLM)やAIのビジネス活用について学びました。



タイのクボタファームで昔ながらの農業を実践



住友林業社有林施業地の見学

③【UGIP】(株)クボタ企画

100年後の食料問題への解決策を提案

～食料・水・環境分野から持続可能な未来を創造する～

120カ国以上にグローバル展開し、海外売上比率は約78%、世界規模の社会課題解決に貢献し、地球と人の未来を支え続けるクボタのタイ拠点を訪問し、チームで課題解決に挑戦します。タイ現地では、オーガニック農園やクボタファームで農作業をしながら農業を学び、サイアムクボタ(SKC)の工場では農業機械の製造を見学。現地大学生との交流や、市場・博物館・寺院を巡ることで異文化理解も深めました。海外渡航後には東京大学で成果報告会を実施しました。

④【UCOP】住友林業(株)企画

日本の森が抱える課題を解決するには?

ー森林の新たな価値の種を蒔こうー

2024年度から新たにスタートした企画です。日本屈指の森林保有面積を誇る住友林業のインターン生として、国内林業の現場を訪問し、「林業のリアル」を体験します。住友グループの各社をはじめ、日本の近代産業の起点となった愛媛県新居浜市をフィールドとし、チームで課題解決に向けた挑戦を通じ森林の新たな価値を提案します。この経験を通じて、幅広い視野の獲得、更には東京大学のグローバル化に繋がることを期待しています。

プログラム参加者の声

●2024年度ダイキン工業(株)企画参加者
「私にとって、新たな自分を発見する旅のようでした。参加する前は、異文化交流の経験が少なく、少し不安も感じていましたが、実際にプログラムに参加する中で、そんな不安はすぐに解消されました。異なる背景を持つ人々との対話を通じて、自分自身の価値観を深めるとともに、新しい可能性を発見することができました。さらに、異文化だけでなく、日本人同士でも異なる考えや視点があることを学び、それを受け入れることで自分の成長を感じることができました。」

●2023年度(株)クボタ企画参加者
「UGIPで学んだのはチームワークにおける人間関係と意見尊重の大切さである。初対面の四人組で大きなテーマを取り扱わなければならない、チームとして進める上でいくつかの問題に直面した。(中略)なにより議論の時間外で構築した一人一人との信頼関係が一番大事だと感じ、尊敬の基盤の上だと批判もすることができると学んだ。UGIPではグループでの尊敬と信頼の関係の構築の仕方を身につけることができ、これから活かしていきたい。」

●2023年度ソフトバンク(株)企画上位入賞者(Findability Sciences Inc.におけるグローバル・インターンシップ体験者)
「インドの人々と交流して日本人と異なると感じたのが積極性・ハングリー精神です。交流会や質問時間でインドの学生やFS社員は積極的に東大生に話しかけ、挙手をしていました。日本では手を上げることや自分から話すことに対する抵抗感が強くて恥ずかしがる人も多く、自分も初めはそう感じて消極的でしたが、次第に感化されていきプログラム後半では最初に比べて積極的に社員や学生に話しかけるようになっていました。」

●2024年度住友林業(株)企画参加者
「環境保全と経済活動の両立について学べたのは、貴重な体験になった。」「現場で体験することの重要性を直に感じ取れた。」「必然的に長期的な視野でいろいろなことを考えるきっかけとなった。」

(参考)2024年度の実施スケジュール (D)=ダイキン工業(株)企画/(SB)=ソフトバンク(株)企画/(K)=(株)クボタ企画/(S)住友林業(株)企画											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(D)応募期間 ⇒ 合否決定 ⇒ 国内事前学習等 ⇒ 現地活動⇒ 報告会											
				(SB)前年度企画優秀者海外渡航	(K)応募期間⇒合否決定⇒ 国内事前学習等 ⇒ 現地活動⇒報告会						
					(SB)ハッカソンに向けたイベント・勉強会・交流会⇒ハッカソン応募締切⇒ハッカソン⇒プレゼン大会						
		(S)応募期間⇒合否決定⇒事前学習⇒現地活動⇒報告									

6. 各学部・研究科によるプログラム

1) 学部・研究科間交換留学 協定校一覧

各学部・研究科が独自に行っている「学部・研究科間交換留学」の協定校一覧です。
プログラムへの応募方法、最新情報等は各学部・研究科の担当部署で確認しましょう。

※2025年2月1日現在、交換留学を実施するため、東京大学が学生交流覚書を締結している協定校を掲載しています。覚書の更新や取扱いの検討等により調整中につき掲載されていない協定校があること、掲載されていても当該年度に交換留学を実施しない場合もあることに注意してください。
※担当学部・研究科ごとに取扱いが異なるため、詳細は担当学部・研究科に確認してください。

※(M)は修士のみ、(D)は博士のみ

国・地域	協定校	対象
法学政治学研究科・法学部		
中国	北京大学法学院	院
中国	北京大学国際関係学院	学部/院
韓国	ソウル大学校法科大学院	院
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学法学・犯罪学部	学部/院
オーストラリア	オーストラリア国立大学法科大学院	院
医学系研究科・医学部		
台湾	国立台湾大学医学部	学部
韓国	ソウル大学校医学科	学部
シンガポール	シンガポール国立大学医学部	学部
タイ	マヒドン大学シリアート病院	学部
米国	ジョンスホプキンス大学医学部	学部/院
米国	ペンシルバニア大学医学部	学部/院
米国	ミシガン大学医学部	学部/院
米国	ハワイ大学医学部	学部
ドイツ	ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学医学部	学部
スウェーデン	カロリンスカ研究所	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学健康科学学部	学部
工学系研究科・工学部		
台湾	国立中山大学理学院・工学院	学部/院
中国	西安交通大学	学部/院
中国	大連理工大學	学部/院
中国	同済大学院 ※新領域と担当	学部/院
中国	北京交通大学	学部/院
香港	香港理工大學建設・環境学部	学部/院
インド	インド工科大学マドラス校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学カラグブール校	学部/院
インド	インド工科大学カンブール校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学デリー校 ※情報理工と担当	学部/院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※情報理工と担当	院
インド	インド工科大学ルールキー校	学部/院
インド	インド経営大学院/バンガロール校 ※情報理工と担当	院
韓国	ソウル大学校工科大学	学部/院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院[AMU] ※新領域と担当	院(M)
タイ	アジア工科大学院	院
タイ	チュラロンコン大学工学部 ※対象専攻・学科限定	学部/院
タイ	タマサート大学国際工学部(SIIT)	学部/院

国・地域	協定校	対象
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校理科大学	学部/院
トルコ	中東工科大学工学部	学部/院
トルコ	イスタンブル工科大学理工学部	学部/院
カナダ	マクマスター大学	学部/院
米国	マサチューセッツ工科大学 ※対象学科限定	学部
米国	カリフォルニア大学(全校)	学部/院
オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	学部/院
オーストラリア	クイーンズランド工科大学理工学部	学部/院
オーストリア	ウィーン工科大学	院
オーストリア	グラーツ工科大学	学部/院
デンマーク	デンマーク工科大学	学部/院
フィンランド	アールト大学	学部/院
フランス	ソルボンヌ大学工学部	学部/院
フランス	セントラルスープレック	学部/院
フランス	エコールアトランティック	学部/院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校(INSA Lyon)	学部/院
フランス	エコール・ミン・パリ	学部/院
フランス	エコール・デ・ボン・パリテク(ENPC)	学部/院
フランス	航空宇宙高等学院(ISAE)	学部/院
フランス	国立民間航空大学校(ENAC)	学部/院
フランス	エコール・セントラル・リヨン	学部/院
フランス	トロワ工科大学	学部/院
フランス	パリ・サクレー高等師範学校(EMS Paris-Saclay)	学部/院
フランス	コンピエーニュ工科大学	学部/院
フランス	サヴォア・モンブラン大学	学部/院
フランス	ポリテク パリ・サクレー	学部/院
フランス	ボルドー大学	学部/院
ドイツ	シュツットガルト大学	学部/院
ドイツ	カールスルーエ大学	学部/院
ドイツ	ミュンヘン工科大学(TUM)	学部/院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学	学部/院
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン・ニュルンベルク工学部	学部/院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンス及び自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※理学系と担当	学部/院
ドイツ	ブランデンブルク工科大学	学部/院
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学土木工学部	院(M)
ドイツ	ルール大学ボーフム機械工学部	学部/院

国・地域	協定校	対象
ドイツ	ヴュルツブルク大学数学・コンピュータサイエンス学部	学部/院
イタリア	トリノ工科大学 ※情報理工と担当	学部/院
イタリア	ミラノ工科大学	学部/院
イタリア	聖アンナ大学院大学バイオロボティクス研究所 [GSDM]	学部/院
イタリア	トレント大学 ※情報理工と担当	学部/院
オランダ	デルフト工科大学機械・海洋・マテリアル工学部	学部/院
オランダ	トエンテ大学	学部/院
ノルウェー	ノルウェー工科大学自然科学大学	学部/院
ロシア	サンクトペテルブルグ国立大学マネージメントスクール	学部/院
スペイン	マドリッド工科大学建築学部	学部/院
スペイン	バレンシア工科大学	学部/院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学	院(M)
スウェーデン	リンシェーピング大学理工学部 ※情報理工と担当	学部/院
スウェーデン	スウェーデン王立工科大学理工学部[GME]	学部/院
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ(EPFL)	学部/院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学[AUSMIP] ※新領域と担当	学部/院(M)
人文社会系研究科・文学部		
中国	山東大学儒学高等研究院・歴史学院	学部/院
中国	北京大学歴史学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※総合文化と担当	院
中国	北京大学哲学宗教学系 ※総合文化と担当	院
香港	香港中文大学文学院	学部/院
韓国	ソウル大学校人文大学	院
インド	デリー大学文学部、社会科学部	院
イラン	テヘラン大学	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユール(リヨン校)	院
フランス	パリ第7・デイドロ大学 ※総合文化、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学(歴史文化学部、他) ※総合文化と担当	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン ※総合文化と担当	学部/院
イタリア	ピサ高等師範学校	院
英国	カーディフ大学	学部/院
イギリス	ケンブリッジ大学アジア・中東学部(青井交換留学奨学金賞への応募必須)	院
理学系研究科・理学部		
中国	吉林大学研究生院	学部/院
中国	大連理工大学化学工学部	学部/院
韓国	ソウル大学校自然科学大学	学部/院
カナダ	クイーンズ大学文理学部	学部/院
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	学部/院
米国	カリフォルニア大学	学部
ベルギー	ゲント大学理学部	学部/院
ベルギー	ルーヴェン・カトリック大学理学部	学部/院
フランス	国立工学研究センター(ENSICAEN)	学部/院
フランス	パリ・サクレー大学理学部	学部/院
フランス	ボルドー大学ポールバスカル研究センター	学部/院
フランス	レンヌ大学物質科学部門	院
ドイツ	アーヘン工科大学数学、コンピューターサイエンスおよび自然科学部・建築学部・土木学部・機械工学部・資源およびマテリアル工学部・電気および情報学部 ※工学系と担当	学部/院
ドイツ	ライプニッツ大学ハノーバー自然科学研究科	学部/院
イタリア	フェラーラ大学物理学・地球科学部	学部/院

国・地域	協定校	対象
ノルウェー	オスロ大学	学部/院
スウェーデン	ルレオー工科大学コンピュータ科学・電子・宇宙工学部	学部/院
農学生命科学研究科・農学部		
台湾	国立台湾海洋大学	学部/院
台湾	国立中興大学獣医学院	学部/院
台湾	国立屏東大学科技獣医学院	学部/院
台湾	国立台湾大学生物資源農学院	学部/院
中国	中国農業大学	学部/院
中国	東北林業大学	院
中国	南京農業大学	学部/院
中国	南京林業大学	院
中国	北京林業大学	学部/院
中国	西南大学	学部/院
中国	海南大学林学院	学部/院
中国	浙江農林大学	学部/院
中国	福建農林大学	学部/院
インド	タミルナードウ農業大学	学部/院
インドネシア	ウダヤナ大学	学部/院
インドネシア	ボゴール農科大学(IPB)	学部/院
インドネシア	ムラワルマン大学	学部/院
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	学部/院
韓国	ソウル大学校獣医科大学	学部/院
韓国	釜慶大学校水産科学大学	学部/院
韓国	釜慶大学校環境海洋科学大学	学部/院
マレーシア	マレーシア・サバ大学	学部/院
モンゴル	モンゴル生命科学大学	学部/院
モンゴル	モンゴル国立大学工学応用科学部	学部/院
スリランカ	ルフナ大学	学部/院
タイ	カセサート大学獣医学部・農学部・林学部	学部/院
タイ	コンケン大学農学部	学部/院
タイ	チェンマイ大学	学部/院
タイ	チュラロンコン大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国立農業大学	学部/院
ベトナム	カントー大学	学部/院
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	学部/院
オーストリア	ウィーン自然資源生命科学大学	院
フランス	アグロパリテック	院
ドイツ	カールスルーエ工科大学	学部/院
ドイツ	ボン大学開発研究センター	院
スウェーデン	スウェーデン農科大学	院
経済学研究科・経済学部		
フランス	HEC経営大学院(HEC Paris)	学部/院
ドイツ	フランクフルト大学経済・経営学部	学部/院
スウェーデン	ストックホルム・スクール・オブ・エコノミクス(SSE)	学部/院
英国	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)社会・歴史学部	学部
総合文化研究科・教養学部		
台湾	国立政治大学歴史学系	院
台湾	国立政治大学台湾史研究所	院
台湾	国立台湾大学文学院	学部/院
中国	華東師範大学思勉人文高等研究院	院
中国	北京大学歴史学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学中国語文学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学哲学系宗教学系 ※人文社会系と担当	院
中国	北京大学元培学院(東アジア藝文書院(EAA)「東アジア教養学」プログラム)	学部
韓国	韓国外国語大学校日本学大学	学部/院
シンガポール	シンガポール国立大学理学部	学部

次ページへ続く

国・地域	協定校	対象
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属人文社会科学大学	学部/院
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校附属日越大学	院
インド	デリー大学文学部、社会科学部 ※人文社会系と担当	院
米国	ニューヨーク大学大学院総合文化研究科	院
カザフスタン	アルファラビカザフ国立大学東洋学部	学部/院
フランス	パリ・シテ大学 (旧・パリ第7・デイドロ大学) ※人文社会系、数理科学と担当	学部/院
フランス	パリ第8大学 ※人文社会系と担当	学部/院
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
ドイツ	ベルリン・フンボルト大学	学部/院
ドイツ	マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学第一哲学部	学部/院
ドイツ	ベルリン自由大学 (歴史文化学部、他) ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	ユストゥス・リービヒ大学ギーセン社会科学・文化学研究科、メディア論研究センター	学部/院
ドイツ	ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ人文学部	学部/院
ドイツ	トリア大学第二学部、第三学部	学部/院
ドイツ	ゲオルグ・アウグスト大学ゲッティンゲン社会科学部 ※人文社会系と担当	学部/院
ドイツ	フランクフルト・ゲーテ大学 総合言語文化研究学部	学部/院
イタリア	トレント大学細胞・コンピューター統合生物学センター、国際学部、社会学部、心理学・認知科学部	学部/院
イタリア	トリノ大学人文学学科	学部/院
ロシア	ロシア国立人文大学	休止中
スペイン	セビリア大学哲学部	学部/院
英国	エセックス大学	学部

教育学研究科・教育学部		
スウェーデン	ストックホルム大学教育学部	学部/院

薬学系研究科・薬学部		
中国	瀋陽薬科大学	院
米国	テキサス大学M.D. アンダーソンがんセンター	院
ドイツ	ボン大学リサーチ・トレーニンググループ1873	院
スウェーデン	イェテボリ大学S.A. アカデミー	院

数理科学系研究科		
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン数学科	院
フランス	パリ第7・デイドロ大学 ※人文社会系、総合文化と担当	院
ロシア	国立研究大学高等経済学院 (HSE)	院

新領域創成科学研究科		
中国	同済大学院 ※工学系と担当	院
シンガポール・中国	シンガポール国立大学設計・環境学部 同済大学 建築・都市計画学院 清華大学 建築学院 [AMU] ※工学系と担当	院 (M)
韓国	韓国科学技術院 (KAIST) 工学研究科	院
ブラジル	ベルナンブコ連邦大学	院
ブラジル	サンタカタリーナ連邦大学	院
ブラジル	パラナ連邦工科大学	院
コロンビア	エアフィト大学	院
オーストラリア	ウィーン工科大学	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校 (INSA Lyon)	院
フランス	エコール・ノルマル・スーペリユールリヨン	院
フランス	エコール・セントラル・ドゥ・ナント校	院
フランス	ジャンモネ大学	院
フランス	クロード・ベルナール・リヨン第一大学	院
フランス	フランス国立パリ建築大学ヴァル・ド・セヌス校	院
ドイツ	ボン大学開発研究センター ※農学系と担当	院
英国	インペリアルカレッジロンドン工学研究科化学工学専攻	院
ノルウェー	スタヴァンゲル大学ビジネススクール	院

国・地域	協定校	対象
ノルウェー	ノルウェー工科大学	院
スウェーデン	チャルマーズ工科大学	院
EU	ミュンヘン工科大学、パリ・ラヴィレット建築大学、リスボン大学、ルーバン大学、ソフィア建築・土木・測地学大学 [AUSMIP] ※工学系と担当	院 (M)
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)	院

情報理工学系研究科		
中国	北京大学 (計算機学院)	院
インド	インド工科大学マドラス校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ハイデラバード校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学カンプール校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学デリー校 ※工学系と担当	院
インド	インド工科大学ボンベイ校 ※工学系と担当	院
インド	インド経営大学院バンガロール校 ※工学系と担当	院
タイ	チュラロンコン大学工学部、理学部	院
オーストリア	ウィーン工科大学 (VUT)	院
デンマーク	デンマーク工科大学 (DTU)	院
フィンランド	アールト大学	院
フランス	エコール・スーペリユール EA (ESIEA)	院
フランス	セントラルスープレック	院
フランス	IMT Atlantique	院
フランス	ENS/パリ・サクレ	院
フランス	フランス国立応用科学院リヨン校 (INSA Lyon)	院
フランス	ソルボンヌ大学	院
ドイツ	ミュンヘン工科大学 (TUM)	院
ドイツ	ダルムシュタット工科大学 (TUD)	院
ドイツ	ウルム大学	院
イタリア	トリノ工科大学 ※工学系と担当	院
イタリア	トレント大学 ※工学系と担当	院
ノルウェー	ノルウェー工科大学 (NTNU)	院
スウェーデン	リンシェーピング大学理工学部 ※工学系と担当	院

学際情報学府		
韓国	ソウル大学校社会科学大学言論情報学科	院
公共政策学連携研究部・教育部		

中国	北京大学国際関係学院 (PKU-SIS)	院
韓国	ソウル大学校国際大学院 (SNU-GSIS)	院
シンガポール	シンガポール国立大学リー・クワンユー公共政策大学院 (LKY-SPP)	院
ブラジル	ジェットウリオヴァルガスビジネススクール (FGV)	院
米国	コロンビア大学国際公共政策大学院 (SIPA)	院
米国	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) ラスキン公共政策大学院公共政策学科	院
オーストラリア	オーストラリア国立大学 (ANU) クロフォード公共政策大学院	院
デンマーク	コペンハーゲン大学社会科学系研究科	院 (D)
フランス	パリ政治学院 (Sciences Po.)	院
フランス	HEC経営学院 (HEC Paris)	院
ドイツ	ヘルティエ・スクール (Hertie School)	院
ドイツ	ハイデルベルク大学 The Graduate Programme for Transcultural Studies (GPTS)	院
英国	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス (LSE)	院
英国	ロンドン大学キングスカレッジ社会科学公共政策研究科	院
その他	国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)	院

2) 教養学部前期課程「国際研修」/後期課程「後期国際研修」

「国際研修」/「後期国際研修」は、学生が異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養うことを目標とする授業です。授業内容としては、(1)海外教育機関との共同プログラム、(2)現地の学生との合同見学・合同実習等を含む短期の海外研修、(3)海外の学生との合同国内研修等様々な活動があります。そのような機会によって得られる成果が単位 (通常2単位) として認定されます。本授業の多くは、S2ターム (夏休み)・A2ターム (春休み) 期間中に実施されますが、その他S1-2/A1-2セメスター期間に日本にて実施される国際研修や、渡航前に、通常のセメスター/ターム中に事前研修を実施する場合もあります。

「国際研修」/「後期国際研修」の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問いません。むしろ、学生にとってのはじめての海外経験を後押しする科目です。進んで自分の視野を開こうとする学生の積極的な参加姿勢がのぞまれます。但し、授業によっては参加者の選抜が行われる場合や、ある水準以上の語学力、専門性が求められる場合があります。学生が負担する費用や奨学金の有無等は授業によって異なるので、詳細はそれぞれの授業のシラバスを参照し、個別のガイダンスで説明を受けてください。全体用のガイダンス資料もS/Aセメスター開始後にGlobal Komabaのウェブサイトに掲載されますので、そちらもご参照ください。

グローバル駒場の国際研修ウェブサイトへアクセス



https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/study_abroad_programs/globalpraxis/

前期課程「国際研修」/後期課程「後期国際研修」過去の実施例

講義題目	研修地
UTokyo Summer Internship Program in Kashiwa (UTSIP Kashiwa)	日本
南京中国語サマースクール/中国社会文化研修——深思北京 2024	中国
台湾フィールドワーク	台湾
ソウル大学校韓国語研修サマープログラム	韓国
ドイツ語夏季/春季研修	ドイツ
イタリアで考古学を体験する/トリノ大学イタリア語研修	イタリア
TLPフランス語夏季/春季研修	フランス
平和のために東大生ができること:中央アジア研修	カザフスタン
スペイン語TLP研修	メキシコ
開発と貧困:フィリピン国際研修	フィリピン

イタリアで考古学を体験する

国際研修「イタリアで考古学を体験する」は、2017年度に大学院の多文化共生 (IHS) コースの国際研修として、ナポリに近いソンマ・ヴェスヴィアーナ遺跡の現場を訪れるプログラムとして始まり、コロナ禍2年間の中断を挟み、現在、前期課程を中心に10人ほどを定員に行われています。さまざまな分野・科類の参加者が、東京大学が二十年以上調査を継続している古代遺跡で実際に発掘に参加し、国内外でその教育活動も注目されています。考古学は人文学的知が、自然科学・技術を統合・応用して研究を進める学際フィールドです。事前学習で初歩の知識と注意事項を学んでから、現地で専門家・教員のスタッフとともに、イタリアでも稀有な調査進行中の大型遺跡に入りますが、そこは調査開始当初以来の「アウグス帝 (時代) のヴィラ」という仮説の証明に近づく、刺激的局面にあります。参加者はイタリア人学生や国際的研究者と交流し、現場で最先端の知見に触れます。またナポリやボンベイを訪れ、文化遺産の継承と、関連する現代社会や自然災害について考え、プログラム終盤に英語のワークショップで各自発表します。それぞれの経験は、将来さまざまな分野で学際性の涵養として活かされ発展することが期待されています。



3) 各学部・研究科による海外プログラム

海外武者修行 (工学系研究科・工学部)



工学系研究科・工学部では、学生が海外の大学・研究機関を訪問するための渡航費支援の取り組みとして、「海外武者修行」を実施しています。参加学生は、自分で海外の著名な研究室への訪問をアレンジし、自分の研究成果について発表を行います。各分野の一流の専門家からレビューを受けることにより、当該分野の国際コミュニティにおける自分の研究の立ち位置を確認し、研究へのモチベーションを高めると同時に、国際共同研究のきっかけを掴むことが期待されています。

これまでオックスフォード大学やマサチューセッツ工科大学をはじめとする世界各国の大学・研究機関の研究室への派遣実績があり、参加学生にとっては、海外の研究現場を肌で感じることで、今後の研究やキャリアについても考えを深めることができる貴重な機会となっています。

海外武者修行へチャレンジしたい方は、工学系研究科・工学部学生用情報ポータルサイトの通知を参照してください。

対象学生:工学系研究科・工学部の学生(詳細は募集要項を参照)
実施期間:募集要項にて確認
応募方法:募集要項に従って期日までに応募書類を提出する
お問い合わせ先:工学系・情報理工学系等事務部国際推進課国際交流チーム
oice-jimu.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

国際交流促進プログラム (農学生命科学研究科)



本プログラムは、留学を通じて国際的な経験と知識を身につけ、より深く、かつ幅広い研究活動の発展に資することを目的とし、奨学金の支給により海外の大学、研究所・研究機関等への留学を応援します。本プログラムにより、若い時期に多様な専門分野の研究に参画することで、海外における最先端の研究手法や当該分野での人脈の獲得、国際的な人的ネットワークの形成等が期待され、また英語でのコミュニケーション能力の向上も期待されます。

本プログラムは、1.自らの自由な発想で留学計画を組み立てられる
2.留学先・研究内容等の自由度が比較的高いプログラムである
3.主に海外留学を経験したことのない者を優先する、を特色としています。詳細については、本研究科のウェブサイトを参照してください。

対象学生:農学生命科学研究科に在学する大学院学生(修士課程内定者含む)
実施期間:2025年7月～2027年3月(予定)のうち3ヶ月～1年
応募方法:書類審査(年2回募集)
URL:https://www.a.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:農学系教務課学生支援チーム(学生生活担当)



理学部学生国際派遣プログラム(SVAP) (理学部)



本プログラムでは、選抜された理学部学生を研究実習(インターンシップ)や短期講座受講(サマースクール等)のため海外の大学や研究機関に派遣しています。学生は興味のある分野の研究を行っている海外の教員や研究者に自力でコンタクトを取り、インターンシップの受入許可を得るか、参加したい海外プログラムを見つけ応募等の必要な手続きを行った上でSVAPに応募します。書類審査と英語による面接を経て採択された場合は、自分で渡航計画を立て理学部の経済支援のもと海外での研究や講座受講を体験します。これまでの派遣生は、様々な大学や研究機関へ渡航し、充実した研究や学修の体験を得て帰国しました。

https://www.facebook.com/UTokyo.SVAP/
ハードルの高いプログラムですが、その分、プログラムへの参加を経て大きく成長することができます。また、自分で行き先も期間も決められる自由度の高さも好評です。

対象学生:理学部学生ならびに理学部に内定している推薦入試入学者
実施期間:5月～翌年2月の間の2週間～2ヶ月間未満(応募者自身が決定)
応募方法:応募書類提出(派遣の前年度の2月上旬頃締切)
URL:https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/offices/ilo/svap/application.html
お問い合わせ先:理学部学務課国際チーム
intl.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



東京大学リベラルアーツ・プログラム (総合文化研究科・教養学部)



リベラルアーツ・プログラム(LAP)は、教養教育を海外へ発信し、学生交流を通じてグローバルな視野と総合的判断力を備えた人材の育成を目指す教育交流プログラムです。毎年おもに以下の4つのプログラムを実施しています。

(1)学部1、2年生を南京に派遣して実施するフィールドワーク及びグループ討論(3月に1週間派遣)。(2)中国人民大学と連携して実施する、全学を対象とした現代中国社会についてのフィールドスタディ研修(夏季休暇中に1週間派遣)。(3)南京大学と共同で開催する社会文化研修(夏季休暇中に1週間派遣)。(4)南京大学の学生を日本に招聘し本学学部生と共に実施する「普通の人びと」の生活を知るためのワークショップ(A semester, 1週間)。

各プログラムの詳細や参加者の体験談はLAPウェブサイトをご覧ください。意欲的な学生の参加を期待します。

対象学生:主に学部学生が対象だが大学院学生も参加可
専攻・学年の別は問わない
実施期間:上記参照
応募方法:レポート審査もしくは面接
URL:http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/
お問い合わせ先:総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構国際連携部門



漕ぎ出せ!経済の大海へ(部局間協定交換留学プログラム) (経済学研究科・経済学部)



経済学部/経済学研究科と学生交流覚書を締結している大学/ビジネススクールへの交換留学プログラムです。

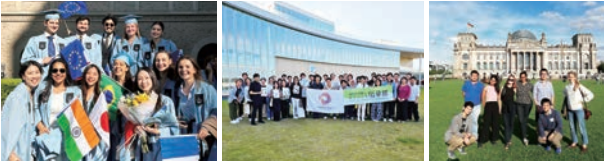
フランスのHEC経営大学院(HEC Paris)/スウェーデンのストックホルム・スクール・オブ・エコノミクス(SSE)/ドイツのフランクフルト大学経済・経営学部/イギリスのユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)社会・歴史学部においてeconomics/management/finance/business関連科目を英語で履修できます。

上記留学先で取得した単位は審査の上、本学部/本研究科の基準で単位数を換算後、卒業単位に含めます。語学要件と成績要件がありますので、準備の上、応募してください。

対象学生:応募時、留学時ともに経済学部/経済学研究科に在籍する学生
実施期間:留学先の学事暦で1学期または2学期
応募方法:募集要項に従い期日までに応募書類を提出。書類選考通過者は面接選考あり。
URL:https://www.student.e.u-tokyo.ac.jp/is/haken.html
お問い合わせ先:経済学研究科等留学生・国際交流担当チーム



海外大学院とのダブル・ディグリー・プログラム (公共政策学教育部)



公共政策学教育部(GraSPP)は、東京大学の大学院の中で最も留学生比率の高い大学院であり、学生数の約半分を留学生が占めています。またGraSPPには、充実した留学プログラムがあり、現在、14大学と交換留学やダブル・ディグリー・プログラム(DD)を行っています。ダブル・ディグリー・プログラムとは、東京大学で1年、海外の協定校で1年学ぶことによって最短2年で二つの大学からそれぞれ学位を取得することができるプログラムです。詳細についてはGraSPPのウェブサイトを参照してください。

対象学生:公共政策学教育部の専門職学位課程学生
実施期間:交換留学は1学期～1年、ダブル・ディグリーは1年
応募方法:プログラムの募集要項に従って、期日までに指定の書類を提出する
URL:https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/student-activities/double-degree-program/
お問い合わせ先:公共政策学教育部国際交流担当
exchange.j@gs.mail.u-tokyo.ac.jp



ユネスコ・バンコク事務所インターンシッププログラム (教育学研究科)



教育学研究科と国連教育科学文化機関(ユネスコ)バンコク事務所アジア太平洋地域教育局(ユネスコ・バンコク事務所)の協定に基づき、教育学研究科に所属する学生をユネスコ・バンコク事務所に数ヶ月間インターンとして派遣するプログラムです。学生はインターンとして、国際的な教育に関する諸領域(政策、実践、調査研究等)においてユネスコが有する豊富な知見に触れ、理解を深め、ユネスコ・バンコク事務所が展開する事業の業務補助を行います。学生の国際感覚を鍛える実践的なプログラムとなっており、教育や教育分野における自らのキャリアについて、国際的な視点から考える機会となることが見込まれます。具体的な時期・期間・受入部署は、教育学研究科から学生の推薦を受けてユネスコ・バンコク事務所が決定します。本プログラムの詳細は、教育学研究科学生支援チームのウェブサイト(学内限定)を参照してください。

対象学生:教育学研究科に在学する大学院学生
実施期間:9月以降に開始し、4ヶ月以上6ヶ月間(受入部署との協議により決定)
応募方法:書類・面接審査により選考
お問い合わせ先:教育学研究科国際交流センター・学生支援チーム

海外派遣プログラム (法学政治学研究科)



東京大学大学院法学政治学研究科では、国際競争力ある法律家の育成を目指して、学生がそのキャリアのできるだけ早い時期に国際的な経験を積む機会を得られるように、海外のロー・ファームや国際機関にインターン・トレイニーとして大学院生等を派遣する「海外派遣プログラム」を2008年度から実施してきました。2024年度までに130名の卒業生、在学生が各国に派遣されてきました。派遣生は、総合法政専攻博士課程に在籍中の学生および法科大学院生、法科大学院修了生(その年度の卒業生、在学中司法試験受験予定者)です。例年、司法試験終了後の7月下旬頃から10月頃までの間の約1ヶ月で実践的な経験を積んでいただきます。受入先事務所とのインターン期間交渉に始まり、航空券、宿泊先の確保等をすべて学生・卒業生が自ら行い、職業だけではなく実生活での海外経験の実践も積むことができるプログラムです。ぜひ、ウェブサイトで報告書をご覧ください。

対象学生:紹介文をご覧ください(詳細は応募要項でも確認いただけます)
実施期間:研究科、IBCのウェブサイト(下記URL)をご確認ください
応募方法:応募要項記載のフォームより
URL:https://www.ibc.j.u-tokyo.ac.jp/activities/exchange/
お問い合わせ先: blc@j.u-tokyo.ac.jp



7. 学内でできる国際体験

1) グローバル教養科目Global Liberal Arts Courses (GLA)

ー授業で、英語を使って留学生と共に学ぶー

東京大学の国際化教育を推進するグローバル教育センターが提供する、現代の世界が直面する喫緊の課題、特に「SDGs」(持続可能な開発目標)に関する分野横断的なトピック(ジェンダー、ダイバーシティ、健康、貧困、GXなど)を英語で学ぶ授業科目です。交換留学生を含む全学部の後期課程学生(2年次最終セメスターに在籍している進学内定者を含む)・大学院生が履修でき、原則20名程度の少人数で、ディスカッションなどのインタラクティブな活動を中心に授業が展開されます。学問分野や国境などのあらゆる境界を越えて共に学ぶ事を通して、自分の考えを英語で明確に説得力をもって表現する事、異なった意見に耳を傾け、話し合いを通じてより良い道を探る方法を学ぶ事を目指します。



- 履修要件 全学部の学部後期課程学生(2年次最終セメスターに在籍している進学内定者を含む)と大学院生が受講できます。
- 成績評価 5段階評価と合否判定の2つから選択できます。
- 授業トピック SDGs(持続可能な開発目標)を中心に、現代社会の重要課題を考えます。
- 使用言語 英語。2025年度以降、英語以外の様々な言語でも展開します。詳細はウェブページをご覧ください。
- 開講場所 本郷キャンパス・駒場キャンパス・オンライン



GLAの特徴

- ・各セメスター30科目程度を開講しています。
本郷キャンパス、駒場キャンパスのどちらでも受講可能です。
- ・授業として履修するので、合格すると単位を取得できます。
- ・留学準備の1ステップとしても活用できます。
- ・英語に自信が無くても大丈夫。教員は学生の英語力に幅があることを想定しています。
- ・ディスカッションのやり方を身につけたい学生を歓迎します!

開講科目の例

- ・ Women in Science
- ・ Medicinal Chemistry: from Drug Discovery to Market
- ・ Exploring Global Englishes
- ・ Everyday Nationalism
- ・ Technologies of Resistance
- ・ Japan as They Saw It
- ・ Introduction to Sustainable Tourism



受講者の声

- ・ The frequent discussion sessions we had in class ended up being a very productive way of learning and cultural exchange!
- ・ This class gave me rich experiences of speaking and listening to English.

詳細はこちら



<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/globalliberalarts.html>

2) UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)

ー海外学生と共に英語環境で学ぶ東京大学での短期プログラムー

UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC) は、グローバル教育センターが提供する、海外の学生向けの短期受入プログラムです。世界中の優れた学生を対象に東京大学の教員がすべて英語で講義を行うこのプログラムには、東京大学の学生も特別価格で参加できます。UTokyo GUCに参加することで、留学のような費用がかからず、東京に居ながらにして、馴染みあるキャンパスで世界中の学生と交流しながら英語環境で学ぶことができます。受講生には「グローバル・ユニット(※)」が付与され、成績が記載されたCertificateが、グローバル教育センターより発行されます。

※グローバル・ユニットは学部・研究科が提供する通常の単位とは異なり卒業要件等には算入できません。

- 期間 2025年6月中旬～7月末(各コース1～2週間)
- 開講コース数 28コース(※予定。対面・オンライン含む)
- 対象 海外の大学に在籍する学生・東京大学の学生
- 受講料(東京大学の学生の場合)
対面コース)1ユニット:18,000円、2ユニット:36,000円
オンラインコース)0.5ユニット:3,500円
- その他
 - ・主に学部学生を対象とするが、大学院学生の受講も可
 - ・受講生は、書面審査を経て決定
 - ・受講が決定した学生は、修了できるよう必ず最後まで講義に参加してください
- 詳細
開講コースのシラバスや応募の詳細についてはGUCウェブサイトを確認してください

参加者の声

東京大学教養学部文科二類2年
(プログラム参加当時)

"As a UTokyo student who participated in GUC, what impressed me most was that all students were participating so actively. It was sometimes hard to keep up with them and to state my opinions in the class, but I was inspired so much by such attitude of other students. Also, as the atmosphere of the class was so welcoming, I was able to try my best without being afraid of making mistakes. I listened to various opinions and feelings from the international students, and I think these circumstances made the class more meaningful and fun."

最新情報はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html>



2024年度のGUCには、世界20カ国の83大学から、のべ306名の学生が参加しました



3) Dialogue at UTokyo GlobE

グローバル教育センターでは、新たな取り組みとして、対話イベントシリーズ「Dialogue at UTokyo GlobE」を2023年から実施しています。Dialogue at UTokyo GlobEは、ゲストとして招かれた世界の著名なリーダーと、東京大学の総長・理事・学生等との対話を中心に構成されます。学生の国際的な視野を広げ、グローバルな舞台で活躍するための第一歩となることを目的としています。

2024年度開催

ゲスト	開催日
Louise Richardson オックスフォード大学前総長	2024/4/12
中満泉 国連事務次長・軍縮担当上級代表	2024/5/15
東京大学・プリンストン大学・コロンビア大学の学生交流会	2024/6/24
Cynthia M. Friend カプリ財団会長、ハーバード大学名誉化学教授	2024/10/4
Michelle Baron 日産自動車常務執行役員	2024/10/28
Sibi George 駐日インド共和国特命全権大使	2024/12/13
塩田周三 株式会社ポリゴン・ピクチュアズ代表取締役	2025/1/15



4) USTEP パートナース

USTEP Partnersは、東大の学生が国際交流により積極的に参加する機会を提供することを目的として、2023年度のAセメスターに開始された新しい取り組みです。東大で受け入れる全学交換留学生（以下USTEP生）のパートナーとして、USTEP生がより充実した学生生活を送るためのサポートを提供したり、交流イベントを企画・実施したりすることを通して、お互いの言語や文化、価値観を交換し合い、キャンパスにしながら国際交流経験を積むことができます。また、様々な文化背景を持つ留学生と交流することで、実践的な語学力とコミュニケーション能力を身に着けることができます。本プログラムでは、USTEP生とUSTEP Partners（東大の学生）からなる小規模のグループを基盤として交流活動を行います。活動内容は、原則各グループで話し合って決めていくため、より自発的で創造的な活動を自分たち自身で展開していくことができるのが大きな特徴です。活動期間は一学期ごとで、毎年1月～2月または7月～8月頃に募集があります。

詳細はこちら

<https://sites.google.com/g.ecc.u-tokyo.ac.jp/ustep-typeu/ustep-partners>



5) グローバル教育センターによるその他の活動

グローバル教育センターでは、様々な国際交流活動を実施しています。

(1) 本郷キャンパス

留学生との交流を目的として、留学生支援室では言語交換プログラム、中国語茶話会等を実施しています。また、国際交流を目的としたキャンパス内の学生活動の情報提供等も行っています。詳細は以下の「留学生支援ウェブサイト」でご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/life-interact-ac.html>



(2) 駒場キャンパス

留学生とともに日本伝統芸能の鑑賞や文化体験をするイベントから、ダンス・スポーツイベントまで、様々な国際交流の場を提供しています。このほか、新入留学生を対象とした駒場キャンパスツアーのガイドを学生の中から採用する等、積極的な交流の機会を提供しています。詳細はGlobal Komaba ウェブサイトでご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp>



(3) 柏キャンパス

柏キャンパスで学ぶ留学生、外国人研究者およびその家族と1対1で交流するための「1対1交流プログラム」や「言語交換プログラム」を始め、日本人構成員と外国人構成員が学び合うためのイベントを定期的に行っています。また、英語学習支援として、英会話講座や英語相談オフィスアワー、英語論文執筆のためのワークショップ等、様々なプログラムを提供しています。詳細は以下よりご確認ください。

詳細はこちら



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/inbound/ja/kashiwa.html>



6) グローバリゼーションオフィス(総合文化研究科・教養学部)の活動

グローバリゼーションオフィスでは、駒場キャンパスで学ぶみなさんが、国内外で様々な国際経験を積めるようサポートする活動を行っています。活動の大きな柱は、海外を知る、海外で学ぶ、国際交流の三つです。様々な国と地域、そこで暮らす人々や生活、社会等について広く見識を深めたい学生には、毎年数回、様々な分野で活躍する国際経験豊かな専門家を招聘し、カジュアルな講演会やセミナーを開催しています。国際交流に興味がある学生には、留学生や日本人学生が共に参加できる交流型イベントやワークショップを開催しています。もっと主体的に、留学生と関わりたい学生は、英語プログラムで学ぶPEAK1年生や交換留学生を学習面、生活面でサポートするGO Tutorとして活躍する機会があります。活動は主にグローバリゼーションオフィスのラウンジで行います。年に2回程度、新メンバーを募集していますので挑戦してみてください。海外留学に興味のある学生には、留学相談、TOEFL/IELTS説明会、留学成果発表会等を開催しています。教職員や学生留学アドバイザーが学期中、個別の留学相談にも応じています。また大学の交換留学プログラムで海外留学が内定した駒場に所属する学生を対象に留学前研修を実施しています。これらのイベント、プログラム、活動に興味を持った方はグローバリゼーションオフィスのX(旧Twitter)をチェックしましょう。



X(旧Twitter)にアクセス

<https://twitter.com/UTokyoKomabaGO>



7) Global Studies Program(GS)

*本プログラムは今後リニューアル予定であり、下記情報は2024年12月時点のものです。今後の詳細はQRコードより、プログラムのウェブサイトにてご確認ください。

Global Studies Programは、教室での学びを通してアカデミックな国際交流の実践力を養うためのプログラムです。教養学部後期課程の学融合(学科横断型)プログラムの一つですが、提供されている科目は他学部の後期課程の学生も受講が可能です。「グローバル教養実践演習」では海外の学生とのディスカッション、グループワーク等を通して共同演習を行います。他にも幅広い内容の授業が主に英語で開講され、留学生と共に学ぶことができます。教室以外でも、交換留学生を交えてディスカッションの場を設けたり、卒業生や政府・民間機関で活躍されている方のお話を聴く企画等を実施しています。授業以外のこれらイベントは学部・学年を問わずすべての学生が参加できます。文化の多様性、多文化が進む現代において、他者や異文化に対して創造的に開かれた眼差しを獲得し、対話力を鍛えることの重要性はますます高まっています。このプログラムでは、文化的・社会的背景の異なる学生たちが共に学び、活動する場を提供することによって、国際的な視野を身につけ、多言語、多文化の中で活躍できる人材の育成を目指します。留学を考えている学生にもそうでない学生にも、駒場キャンパスにしながらプレ留学体験ができる場ともなっています。



詳細はこちら

https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/en/international/global_learning/
<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/international/learning/gs.html>



8) International Lounge(IL)

ILは、東京大学の学生および教職員の方に多文化国際交流の場を楽しんでいただける、工学系研究科国際工学教育推進機構の国際教育部門が主催するイベントです。学期中の毎週金曜日12:00~13:00に、工学部11号館の1Fで開催されます。東京大学で学ぶ留学生と日本の学生が集まって、持ってきたランチを食べながら、リラックスした雰囲気の中で専門や国を超えて交流しています。趣味の話題から突っ込んだ議論まで、英語でも日本語でも気軽におしゃべりを楽しんでください。年に数回、楽しい季節のイベントも開催しています。英語、日本語、その他の言語で語り合いながら友達を作りたい方、国際交流に興味のある方、新しい人に出会うチャンスです!本郷キャンパスでちょっと身近な国際交流をしてみませんか。事前の参加登録は必要ありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。スケジュールや開催地等は、右記のQRコードからご確認ください。



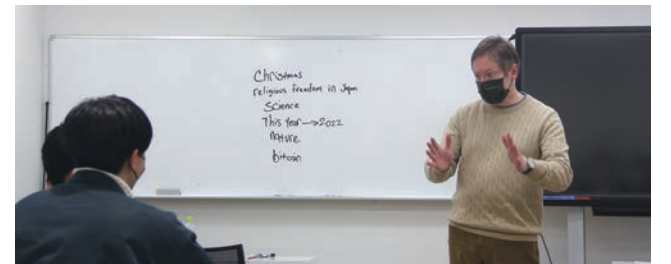
Instagramにアクセス



<https://www.instagram.com/ilatutokyo/>
<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ja/activities/icyou/>
<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/il.html>

9) スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)

スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)は、工学系研究科国際工学教育推進機構が主催する、英会話に慣れない・英語力を向上させたいという東京大学の学生・職員向けのプログラムです。日常会話・プレゼンテーション・ディスカッション・TOEFL対策等様々なコースがレベル別に提供され、比較的低価格で受講できます。複数の英語学校から経験豊かな講師を招き、毎年Sセメスター(4月募集)とAセメスター(10月募集)に8~10週間ずつ本郷キャンパスで放課後に開講しています。みなさんも週1~2回、集中して英語に取り組んでみませんか。自分で英語を話すアウトプットの機会がない、そのために英語で言いたいことがなかなか言えないといったことに悩んでいる方には、特にお薦めです!SELによって、みなさんが本来持っている英語の潜在能力が発揮できるようになります。キャンパス内で気軽に受講できるSELに、ぜひご参加ください。



詳細はこちら



<https://global-eng.t.u-tokyo.ac.jp/program/sel/index.html>

10) UTokyo Amgen Scholars Program

Amgen Scholars Programは、未来の科学者・イノベーターの育成を目的として、主に医学・生命科学系分野を専攻する学部学生を対象に、世界の20を超える大学・機関において実践的・専門的・集中的な研究体験の場を提供する夏季インターンシッププログラムです。航空賃や宿泊費、生活費等の費用がプログラムから支給されます。東京大学の学生は、東京大学に加え、アジアプログラム採択校である京都大学、シンガポール国立大学、清華大学で開催されるプログラムにも応募することができます。いずれのプログラムでも、意欲ある学生達が集まり、積極的に研究活動に取り組んでいます。東京大学プログラム参加者は、期間中全員が同じ宿舎に滞在し、医・工・理・農・薬・生研の大学院/研究所の研究室に所属して最先端の研究に携わり、また研究発表や小旅行等、様々なイベントに参加します。そしてプログラム終了後には、アジアプログラム4校合同のシンポジウムに参加し、研究発表や他大学の参加者との交流も行います。募集期間は11月~翌年2月上旬、プログラム実施は6月上旬~8月上旬の予定です。

UTokyo Amgen Scholars Program

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/amgen_program.html



Amgen Scholars Asia Program

<https://www.amgenscholars.com/asia-program>



Ⅱ 留学の計画と準備

1. 留学を成功させるために

1) 計画を立てよう

① 在学中の留学・国際教育についての全体像をつかむ

- ・このガイドブックを活用し、在学中の留学・国際教育についての全体像をつかみましょう。
- ・数日～1週間の短期プログラムから、1年間の留学、体験活動やインターンシップ、学内でできる国際体験など様々なプログラムがあります。一目で全体をつかむには、このガイドブックの目次を活用するのも一つです。
- ・Go Global Gateway (p2参照) のオンデマンド講座にも在学中の留学・国際教育についての説明動画があり、短時間で全体像をつかむことができます。

② 募集スケジュールの全体像(全学生対象のプログラム)をつかむ

- ・全学生対象のプログラムの募集スケジュールの概要は以下のとおりです。計画的に準備を進めましょう。

時期	募集プログラム等	補足
4月～5月頃	全学交換留学(翌年春開始分)	前年秋の募集で余った枠のみ募集
4月～5月頃	グローバル教育センター担当サマープログラム(同年夏実施分)	
4月～5月頃	体験活動プログラム(海外プログラム)	
4月頃	UTokyo Global Internship Program(ダイキン企画)	
5月頃	(東大留学フェア開催)	
8月～9月頃	全学交換留学(翌年秋以降開始分)	
9月頃	UTokyo Global Internship Program(クボタ企画)	
9月～11月頃	海外大学でのウインタープログラム(翌年1～2月実施分)	直接応募
10月～11月頃	グローバル教育センター担当ウインタープログラム(翌年2～3月実施分)	
1月～6月頃	海外大学でのサマープログラム(同年夏実施分)	直接応募

※その他、随時募集が行われるプログラムがあります。Go Globalウェブサイトの直接応募のページ(p15参照)などで確認してください。

③ 費用の全体像をつかむ

参加に要する費用の全体像のイメージは以下の通りです。

- ・全学交換留学:航空賃、家賃(協定校による。数万円～20万円程度)、生活費、東京大学の授業料
★大学から奨学金(返済不要、月額8～12万円程度+約6ヶ月以上の場合一時金1万円)が支給される学生が大部分
★大学寮等で家賃が安い協定校へ留学した場合、東京で一人暮らしをするより安く留学することも可能
- ・短期プログラム(1ヶ月前後):航空賃、宿泊費、生活費、プログラムの受講料
★プログラムの受講料が必要なため、高額になるケースが多い
★本学学生への受講料免除や割引により費用が抑えられる場合がある
- ・体験活動プログラム(海外):航空賃、宿泊費、生活費、プログラムの参加費用
★プログラムの参加費用はプログラムによる。(数万円～40万円程度)
★活動終了後に、渡航先に応じて、奨励金が大学から支払われる。
- ・UTokyo Global Internship Program:プログラム中の活動経費(航空券・宿泊費・交通費等)は原則として受入先企業が負担

2) 情報を集めよう

自分に適した留学・国際教育プログラムを見つけるために、情報収集はとても大切です。以下のようなツールを活用して、主体的に情報を集めましょう。

① 東京大学全体・グローバル教育センターのプログラム情報

・Go Global ウェブサイト

留学プログラムや奨学金、安全管理等について本ガイドブックよりさらに詳細な情報や最新情報が掲載されています。また、過去にグローバル教育センターのプログラムに参加した学生の体験記も読むことができます。経験者の生の声を参考にしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>



・UTAS掲示板(メール配信)、公式Xアカウント

UTAS掲示板(メール配信)により、グローバル教育センターから全学生宛に直接の発信で、留学・国際教育関連の最新情報をお知らせします。毎月1回程度、直接応募可能なプログラムの情報を配信するほか、募集人数の多いプログラムについては個別に配信も行います。また、メール配信するほどではない有益な情報についてはXでお知らせすることもあります。



@todai_global

https://twitter.com/todai_global



・留学・国際交流関連イベント

グローバル教育センターでは例年5月ごろに大規模な「東大留学フェア」を駒場キャンパスで開催しています。また、年に数回、全学交換留学など個別のプログラムの説明会を開催することもあります。さらに、学外で海外大学や各国大使館等が主催する留学関連イベントも開催されているので目的に応じて積極的に参加してみましょう。説明会・イベントの情報はGo Global ウェブサイトで紹介しています。

② 所属する学部・研究科等の情報

東京大学には多くの学部・研究科等があり、様々なプログラムが実施されています。各学部・研究科独自のプログラムの最新情報・詳細については、各学部・研究科等のポータルサイトや掲示板、窓口等で情報が得られます。また、留学の際の東京大学での学務上の注意点(留学中の授業履修・単位・学籍等)も各学部・研究科によって異なるので、必ず留学プログラムに申請する前に、所属する学部・研究科等の担当部署へ注意点を確認するようにしましょう。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>



③ 個別の相談など

・留学体験記

Go Global ウェブサイト上に、過去にグローバル教育センターが担当するプログラムに参加した全学生分の体験記を掲載しています。費用等も含め詳細な情報が書かれていますので、ぜひ参考にしてください。質問がある場合、体験記を書いた学生へ連絡することも可能です。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>



・所属する学部・研究科/学科・専攻等での相談

学部・研究科/学科・専攻等によっては、留学について相談できる部署や担当教職員が存在する場合があります。各学部・研究科等で確認してみてください。専門分野に応じた情報については指導教員や学科・専攻の先輩が詳しいはずで

・留学情報問い合わせ窓口

Go Global ウェブサイト上にある問い合わせフォームで、東京大学での海外留学に関する一般的な質問に対応しています。一般的な質問ではなく個別・具体的な質問については、プログラムごとの担当部署や上記の方法で相談しましょう。

3) 応募条件をクリアしよう

応募したいプログラムが決まったら、プログラム募集要項等で応募資格・条件を確認しましょう。

応募資格・条件の例)

① 学業成績

学内での定員があるプログラムや奨学金の選考では、学業成績も考慮される場合がほとんどですので、よい成績を収めているとチャンスが広がります。ただし、選考は学業成績以外の要素も含め総合的に行われることも多く、定員が多いプログラムや、応募が少ないプログラムもありますので、積極的にチャレンジしてください!

② 語学能力

プログラムによっては、語学能力の条件を満たしている必要があります。計画的に応募資格・条件をクリアしましょう。試験によっては年に数回しか受験できないもの、結果・スコアが出るまでに時間がかかるものもあるため、計画的に受験しましょう。ただし、語学能力の条件のないプログラムもありますので、積極的にチャレンジしてください!

③ 東京大学への在学

東京大学が企画・募集するプログラムの多くで、プログラム期間を通して在学していること(期間内に休学や卒業・修了しないこと)を条件としている場合があります。事前に募集要項をよく確認しましょう。

2. グローバル教育センター

グローバル教育センター(UTokyo GlobE)は、東京大学のすべての学生の国際化に寄与する学内共同教育研究施設として、2023年4月に設置されました。UTokyo GlobEは、東京大学のグローバル教育を支える「グローバル教育コンシェルジュ」として、すべての学生の国際化を入学から卒業まで徹底的にサポートする役割を担います。



例えばGo Global Gatewayは、学部学生を対象に、東京大学の留学制度などの基礎的な情報を集中的に学ぶ講座を提供するとともに、国際的な修学の意義や重要性を認識してもらうための入門的なプログラムです。学内外の国際的な活動にスムーズに参加していくことができるようサポートします。

また、UTokyo GlobEは、従来の全学交換留学や短期海外派遣プログラムにとどまらず、学内でも国際的な学修の機会を提供しています。例えば、すべての学部後期課程・大学院学生が交換留学生とともに履修できる「グローバル教養科目」では、主にSDGsに関することを英語で学び、さまざまな専門や文化背景、国籍を有する学生と、世界の喫緊の課題を考え、議論します。“UTokyo Global Leadership Program”(東京大学グローバルリーダー育成プログラム(GLP))では、日本と海外、キャンパス内外で多様な背景をもつ教員や学生とともに学びます。

さらに、キャンパスで参加可能な国際交流の機会も多く提供しています。学生が世界の著名なリーダーとの対話を通して国際理解を深め、グローバルな視座を広げるための対話シリーズDialogue at UTokyo GlobEや、本郷・駒場・柏の各キャンパスで実施されている留学生と国内学生の交流イベント、東京大学で学ぶ交換留学生のサポートや交流を目的としたUSTEP Partnersなどの企画・運営も行っています。

UTokyo GlobEが提供するさまざまな活動を通して、学生のみなさんが多様な考えや価値に出会い、それらを理解し、尊重する姿勢を育むことを願っています。

<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>



3. 留学にかかる費用と奨学金

1) 費用と奨学金例

① 費用一般について

長期留学の場合、国・地域や期間によりますが、一般的におよそ200～300万円以上（1年間）の学費・生活費等がかかります。留学しない場合も必要となる、日本での学費・生活費も考慮して検討してみましょう。全学交換留学や学部・研究科間交換留学等の場合には、原則として留学先に授業料を納める必要はなく、東京大学に東京大学の授業料を納めることになります。また、交換留学以外でも、東京大学を通じて申し込むプログラムでは、プログラムの実施機関から東京大学の学生向けの費用の割引・免除・参加補助等が受けられる場合があります。



いかがでしょうか？この例以外にも、留学体験記（p9-11参照）やGo Global ウェブサイト（p35参照）に掲載されている、留学経験者の報告書にも留学に要した費用について記載があります。留学計画の参考にしてください。

② 海外留学等奨学金について

● 奨学金の種類（期間・目的・応募方法）

まず、留学・海外活動の期間によって、概ね3ヶ月以上、3ヶ月未満で奨学金支給の対象が分かれています。さらに、奨学金によっては交換留学、学位取得、その他（インターンシップ、ボランティア等）等、その種類や目的を限定している場合があるので注意しましょう。また、東京大学独自の奨学金だけでなく、外部団体が公募する奨学金にも応募が可能です。外部団体の奨学金には、東京大学を通じて応募するもの（大学公募型）と、個人で外部団体へ直接応募するもの（個人応募型）があります。給付奨学金のほか、貸与奨学金もあります。

● 奨学金の探し方

東京大学および外部団体からの主な奨学金の公募情報は、Go Global ウェブサイト（p35参照）上で随時更新しています。期間・種類別に一覧で掲載していますので、自分の留学・海外活動の内容と照らし合わせて探してみましょう。奨学金の応募締切は留学開始の半年以上前に設定されていることがほとんどです。留学や海外活動を考え始めたら、早めに奨学金についても情報収集すると良いでしょう。また、「他奨学金との併給を認めない」とする奨学金もあるので、併願する際は十分注意してください。

● 東京大学を通じて応募するプログラムに参加する場合

交換留学や3ヶ月未満の留学プログラム等、東京大学を通じて申し込むプログラムに参加する学生には、東京大学・その他支援団体等からの奨学金を支給する可能性があります。奨学金支給の有無や金額は、奨学金支給団体が定める条件（成績・家計基準等）や参加費用、使用可能な財源等を勘案の上、決定されます。グローバル教育センターが実施する全学交換留学、一部の全学短期派遣プログラムについては、要件を満たす学生は学内選考時に奨学金の申請ができます。

● 学位取得のために留学する場合

学位を取得するために留学する場合は、日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（大学院学位取得型）ほか様々な外部団体が公募している奨学金があります。

③ 主な海外留学等奨学金一覧

大学公募型（東京大学による推薦や取りまとめが必要なもの）と個人応募型（個人で直接応募するもの）があります。

- 大学公募型では、奨学金申込書を所属学部・研究科の窓口へ提出してください。提出書類や提出締切については所属学部・研究科の担当部署に確認してください。
- 個人応募型では、東京大学を通さず個人で直接応募することとなります。

1) 3ヶ月以上の留学が対象の奨学金の例

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 短期(3ヶ月～1年以内) 海外留学等奨学金	3ヶ月～1年以内	月額8～12万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN新・日本代表プログラム～	28日～1年以内	月額6～16万円、留学準備金15～25万円、授業料等	所属学部・研究科
*3 (独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(大学院学位取得型)「大学と取り組み応募」	修士2年 博士原則3年	月額15.4～35.6万円	所属学部・研究科
(公財)KDDI財団 日本人留学生助成プログラム	1～2年	月額25万円、大学院生	所属学部・研究科
(公財)経団連国際教育交流財団 日本人大学院生奨学金	2年または1年	学費、生活費等として年間500万円を一律支給、大学院生	所属学部・研究科
(公財)佐藤陽国際奨学財団 派遣留学奨学生	6ヶ月かつ2セメスター以上	月額10～18万円、渡航費25万円、交換留学一時金15万円	所属学部・研究科
(公財)業務スーパージャパンドリーム財団 派遣留学奨学生	1年以内	月額15～20万円、留学一時金15または25万円、2年生以上の学部学生	所属学部・研究科
TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム	1年	180万円、学部学生	所属学部・研究科
百賢亞洲研究院 AFLSP日本人学生交換留学奨学金	2セメスター以上(交換留学先大学に在学中の期間)	年額12,500米ドル(中国・香港の指定大学への留学)	所属学部・研究科
(公財)日揮・実吉奨学会海外留学奨学金	1セメスター以上1年以内	生活滞在費月額15万円、渡航費上限20万円、理工系(自然科学分野専攻)大学院生	所属学部・研究科
(公財)トラスト未来フォーラム 海外留学支援奨学金	5ヶ月～1年以内	月額15万円、法学部に在籍している学生	所属学部・研究科
*3 (公財)吉田育英会 日本人派遣留学プログラム	2年以内(審査の上、1年以内の延長あり)	学校納付金合計250万円以内、生活滞在費月額2,500米ドル、往復渡航費、大学院生	所属学部・研究科
*3 (公財)竹中育英会 海外留学奨学生	修士2年、博士3年 修士・博士合わせて原則5年以内	大学納付金250万円以内、滞在費・渡航費等年額250万円以内	所属学部・研究科
(公財)阪和育英会 海外留学奨学生	原則1年以内(条件により6ヶ月以上2年以内)	月額7万円、留学渡航準備金15万円、学部学生	所属学部・研究科
(公財)国際協和奨学会 日本人海外留学奨学生	2年以内	月額12万円、海外の大学の正規課程に進学希望する学生	所属学部・研究科
(公財)フクシマグローバル人材支援奨学財団奨学生	6か月又は1学期以上12か月未満	月額10万円、渡航準備金20万円	所属学部・研究科
(公財)平和中島財団 日本人留学生奨学生	2年以内	月額30万円、往復渡航費、大学院生	直接応募
Friends of UTokyo, Inc. 米国伊藤財団～FUTI奨学金	1学期以上2年以内	学費、滞在費等、実情に合わせて幅広く支給	直接応募
日米教育委員会フルブライト奨学生	詳細はウェブサイトを確認	大学院留学プログラム、大学院博士論文研究プログラム、研究員プログラム、ジャーナリストプログラム、フルブライト語学アシスタント(FLTA)プログラムの5種	直接応募
(公財)松下幸之助記念志財団 松下幸之助国際スカラーシップ	9ヶ月～1年(学部生) 1～2年(大学院生等)	アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国の大学・大学院及び政府研究機関に所属して調査研究する者	直接応募
(公財)経団連国際教育交流財団 経団連グローバル人材育成スカラーシップ奨学生	8ヵ月以上1年未満(理工系専攻者は6ヵ月以上1年未満も可)	200万円(一括支給)、学部2～4年生、大学院博士前期課程(修士課程)学生	直接応募
*3 (公財)船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship	原則2年間 (英国は原則3年)	理工系分野、生命科学分野、経済、経営分野等で、Ph.D.取得を目指す学生	直接応募
*3 (公財)中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生	修士課程:最長2年以内 博士課程:最長5年以内	月額30万円、支度金50万円(往路航空費含む)、復路航空賃、授業料(留学当初の2年間、年間300万円以内)、情報科学・生命科学・経営科学の分野で学位取得目的の留学	直接応募
*3 (公財)伊藤国際教育交流財団 日本人奨学生	原則2年以内	生活費月額1,500～2,000米ドル相当の円賃、学費(年額300万円以内)、往復旅費(限度額範囲内)	直接応募

注)上記給付奨学金の他、(独)日本学生支援機構が実施する貸与奨学金もあります。日本学生支援機構 「海外留学のための貸与奨学金」 <https://www.jasso.go.jp/shogakuin/about/kaigai/index.html>

2) 3ヶ月未満の留学が対象の奨学金の例

奨学金・プログラム名	支援期間	金額・対象	申請先
*1 東京大学 海外派遣奨学事業 超短期(3ヶ月未満) 海外留学等奨学金	3ヶ月未満	月額8～12万円	所属学部・研究科
*2 官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN新・日本代表プログラム～	28日～1年以内	月額6～16万円、留学準備金21～35万円、授業料等	所属学部・研究科
Friends of UTokyo, Inc. 米国の大学での夏季プログラム/インターンに参加する東京大学の学生への奨学金	夏季の数週間	約4,000米ドル 米国の大学での夏季プログラム等	直接応募

注) ●この一覧は2025年2月1日現在の情報です。支援内容は変更される場合があるので、最新情報はGo Global ウェブサイトを確認してください。●*1は東京大学独自の奨学金です。●*2は支援期間が28日～1年の奨学金のため、上記の3ヶ月以上と3ヶ月未満の両欄に掲載しています。●*3は学位取得目的に限定されている奨学金です。●諸外国の政府または政府関係団体による、その国・地域の大学等へ留学する日本人を対象にした奨学金制度については日本学生支援機構のウェブサイト参照してください。●上記は、主な奨学金の例を記載しています。他にも特定の地域在住者対象の奨学金等もあるので、Go Global ウェブサイトを確認してください。

2) 支援者からのメッセージ

“Go Global”にチャレンジする東京大学の学生に社会が期待しています！

グローバルに活躍する人材の輩出を目指し、学生の留学・海外活動を推進する東京大学の取り組みには、卒業生をはじめとする社会から広く賛同を頂いています。そうした方々からの貴重なご寄付による奨学金も増えています。ここでは、支援者からのメッセージとともに、寄付奨学金プロジェクトの先輩奨学生からの声も併せて紹介します。

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム

支援者からのメッセージ

ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラムは、株式会社ゼンショーホールディングスからのご寄付にもとづき、日本と中国との将来を担う人材を育成するため、東京大学が中国の大学と行う学生交流の教育プログラムです。中国を代表する大学の一つである南京大学と連携し、リベラルアーツ教育を通して、双方の学生がともに考え、ともに啓発する中で信頼関係を育み、豊かな人間性を備えた知中派・知日派となることを目指します。本プログラムは①東大×南大共同フィールドワークin南京(3月)②サマースクールin南京(8月)③東大×南大共同フィールドワークin日本(11月)④深思北京から構成されていますが、実施については時節の状況を勘案して決定して参ります。

日中の未来を拓く知中派・知日派を

小川 賢太郎氏

株式会社ゼンショーホールディングス
代表取締役会長 兼 社長



今から400年前、世界人口は5億人余、その60%はアジアに住んでいました。GDPの重心もアジアにありました。ところが1600年、世界最初の株式会社といわれるイギリス東インド会社(EIC)の設立と、1602年のオランダ東インド会社(VOC)の設立を境に、世界構造が急激に変化していきます。アジアの富のヨーロッパへの移動、本格的蓄積が始まり、これがヨーロッパにおけるその後の技術革新、産業革命へとつながり世界はヨーロッパによる支配の時代へと移行します。1585年3万人であった、アムステルダム的人口は1622年には3.5倍の10万5千人へと急増します。

今、世界の構造は400年ぶりの大転換期を迎えています。世界人口に占めるアジアの比率は再び60%を超え、GDPの重心も急速にアジアに移動しつつあります。

このような歴史の流れを見ると、アジア地域の安定的発展と世界全体の平和的発展のため、日中両国の果たすべき役割は大変大きいのではないのでしょうか。そしてそれを具現化していくには、両国において幅広い知識をもとに物事を大局的・総合的に見て、判断し、行動する人材が不可欠であります。

南京大学におけるリベラルアーツのプログラムは東京大学の全面的な支援のもと、両国の歴史・文化・技術について深い理解を持った人材の育成を長期的視点で進めており、株式会社ゼンショーホールディングスも物心両面における全面的な支援をさせていただいております。

このプログラムが、日中両国について深い理解を持つ高度人材を継続的に育て、日本と中国、そしてアジアと世界の安定的発展に資することを期待しております。

参加学生からの声



鶴見 響太郎
教養学部アジア・日本研究コース

私が参加した2022年の『深思北京』では、「日中の民間交流」をテーマとし、その最前線にいる人にインタビューをするという活動を行いました。基本的にはオンラインで実施されましたが、幸いにも私は北京に留学していたため現地で参加できました。活動は中国人民大学の学生と作る数人のグループごとに行い、私のグループは北京在住の日本人記者の方にインタビューを行いました。

私は一連の交流から、通常の旅行や留学では得がたい非常に貴重な経験を得ることができたと感じています。実際に民間交流の最前線で働く社会人の方に会ってお話を聞くことができたのはもちろんのこと、人民大学の学生と深く交流できたこと自体も非常に貴重な経験でした。同じ世代の学生だからこそ、気軽な会話や何気ない雑談、また時には率直な意見交換をすることができ、毎回小さな会話から様々な気づきを得るとともに、言語・文化の垣根を超えて親しい関係性を築くことができました。総じて、民間交流を直接に体験できた非常に有意義な経験でした。

最後に、ともに活動した東京大学と中国人民大学の学生のみなさん、指導・支援してくださった両大学の先生方、そして関係するすべての方々に感謝申し上げます。

Go Global奨学金基金「Fung Scholarships」支援者からのメッセージ

東京大学グローバル・アドバイザリー・ボードのメンバーの一人であったVictor K. Fung氏が代表を務める香港のVictor and William Fung Foundationによる、学部学生の留学を支援することを目的にしたFung Scholarshipsが2015年度よりスタートしました。Fung氏は、世界の有力大学に対して学生の留学奨学金を支援しており、その奨学生達Fung Scholarsは既に7,400名に達しています。日本では東京大学の学生が初めてその仲間入りをしました。本奨学金プログラムでは、毎年20名程度の学部学生が全学交換留学(p6-11参照)に参加し、Fung Scholarsとして香港大学や東京大学の協定校へ派遣されます。

Dr. Victor K. Fung
Chairman, Victor and William Fung Foundation
Group Chairman, Fung Group



Fung Scholars Programme:

With the increasing trend of globalisation, graduates with international outlook and experience of diverse cultures and environments would be the human capital critical to the continuous progress of a society. It was with this conviction, the Fung Scholars Programme, set up by the Victor and William Fung Foundation based in Hong Kong, was established to support university students to experience learning, communicating and networking outside their own culture. The recipients of the Fung Scholarships are known as Fung Scholars and Fung Fellows for postgraduates. They are chosen on the basis of their academic excellence and leadership potential. Since the launch of the Fung Scholars Programme in Bangladesh, Hong Kong, Japan, mainland China, Singapore, Turkey, UK and USA, there have been more than 7,400 scholarship recipients benefiting from the initiatives. To maintain and energise the network of Fung Scholars and Fung Fellows, the Foundation organises an annual Leadership Conference as well as other activities. City-based local chapters are established in Tokyo, Hong Kong, Singapore, Mainland China, New York, Boston and London to provide localised platforms for Fung Scholars in different cities on ideas exchange and give back to their communities. Fung Scholars are highly recommended to form volunteer teams and share their learning and thoughts in Fung Scholars Network Newsletters. More information of the Fung Scholarships: www.FungScholars.org.

“We hope the University of Tokyo Fung Scholars will benefit greatly from this programme, and with wider exposure and experience, share with other Fung Scholars and the community at large the experiences and insights he/she gained from his/her study and/or work experience. We hope through this platform, our Fung Scholars and Fung Fellows are able to expand their network with other Fung Scholars and Fung Fellows worldwide, and that they will be able to contribute much more to the community.”



東京でもFung Scholarsの集いを開催し、奨学生間の交流を深めています。

<https://www.FungFoundation.org/>

詳細はこちら



東京大学では本ページで紹介したプロジェクトのほか、東京大学基金のもとに「Go Global奨学金基金」を立ち上げ、卒業生や企業へ支援のお願いをしています。本基金の趣旨にご賛同頂いた多くの方々から多大なご寄付を頂き、東京大学の学生の“Go Global”を支えて頂いています。

米国留学の強い味方!“FUTI”(Friends of UTokyo, Inc.)の奨学金

FUTI(Friends of UTokyo, Inc.:東大友の会www.friendsofutokyo.org)は、東京大学の国際化を支援する目的で卒業生を中心に2007年に設立された、米国ニューヨーク州登録のNPOです。ニューヨーク州立大学の尾島巖卓越教授(1968年理学部卒)が理事長を務め、卒業生や企業等の寄付をもとに奨学金給付や研究助成を行っています。奨学金は、東京大学と米国各大学の学生が双方に夏季短期留学、または東京大学の学生や卒業生が1学期以上米国の大学に中長期留学をする場合に、応募者を選抜して支給されます。次の奨学金を、それぞれの寄付者の想いに沿ってFUTIが運用します。

●**米国伊藤財団—FUTI奨学金**:故・伊藤雅俊氏((株)セブン&アイ・ホールディングス前名誉会長)が創立された米国伊藤財団からのご寄付を原資としています。将来日本社会に貢献が期待できる東京大学の学生や卒業生に支給されます。活発な課外活動の結果、学業・英語学習に時間制約があった方や、経済的に特別な困難がある方を歓迎する奨学金(IF育英奨学金)もあります。

●**周順圭・周滝沢愛子奨学金**:周ご夫妻が東京大学に寄付された基金を原資としています。周順圭氏は上海市出身で、東京大学大学院で工学博士を取得された後に、米国で半導体関係の企業を複数成功させたエンジェル投資家です。中国・日本・米国の協調発展と、よりよい社会を作ることに貢献できる人材に投資されます。

●**FUTI奨学金**:多数の東京大学卒業生個人のご寄付と信越化学工業(株)の米国法人Shintech, Inc.のご寄付を原資としています。過去にFUTI関連の奨学金を受け、既に社会で活躍している元奨学生からの自発的なご寄付も含まれています。なお日本国籍の博士課程留学者に対象を絞った小林久志記念奨学金が今年度からFUTI奨学金に加わりました。FUTI奨学金は、東京大学の国際化の進展を期待し、益々の発展を願う想いが込められた奨学金です。



UC Berkeleyでのサマーセッションの様子
※留学レポートはFUTIのウェブサイトでご覧いただけます。

詳細はこちら



<https://www.friendsofutokyo.org>

4. 留学における学籍・単位認定

留学等のため海外へ渡航する場合には、所属学部・研究科の担当部署に事前に相談してください。東京大学での学籍上の手続き（留学願、休学願、海外渡航届等）が必要な場合がほとんどです。学籍上の取扱いによって、授業料納入の有無や単位互換の可否が異なりますので注意してください。

〔海外渡航の際の主な学籍上の手続き〕

●「留学」：留学の手続きをとる

●「休学」：休学の手続きをとる

上記の手続きをとらず、海外渡航する場合は、海外渡航届等の手続きを行ってください（例：夏季休業期間を利用し、海外大学に語学留学する場合等）。

〔海外の大学で修学する場合の、学籍上の「留学」と「休学」の違い〕

「留学」の手続きによる場合と「休学」の手続きによる場合の違いは、右の表を参考にしてください。

※交換留学の場合は、「留学」または「研究指導の委託」の手続きが必要です。

※留学先大学で取得した単位の東京大学における認定については、事前に留学時の所属学部・研究科の担当部署に相談してください。

※以下は一般的な情報です。学部・研究科により異なる場合があります。

	「留学」の手続きによる場合 (交換留学)	「留学」の手続きによる場合 (交換留学以外)	「休学」の手続きによる場合
留学先大学での「単位」取得	可	可	可
留学先大学での「学位」取得	不可	不可	場合により可
留学先大学での授業料	払わない	払う	払う
東京大学での授業料	払う	払う	払わない(ただし、休学開始時期にもよるので注意が必要)
修業年限	算入される	算入される	算入されない
東京大学での単位認定	可(ただし、所属学部・研究科が承認した場合)	学部・研究科により異なる	学部・研究科により異なる

外国の大学において取得した単位の取扱いに関する規則(学部学生)

《東京大学学部通則》

第3章 留学

■留学

第14条の2

学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学^{注釈1}することなく外国の大学において授業科目を履修し、単位を取得することを許可することができる。

2 前項の規定により外国の大学において修学する期間は、おおむね1年を限度とするものとする。

■単位の認定

第14条の3

学部長は、学生が留学の期間において修得した授業科目及び単位数については、前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えない範囲で、本学における相当する授業科目及び単位数を修得したものとみなすことができる。

■申請手続

第14条の4

留学の許可及び単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書^{注釈2}を学部長に提出しなければならない。

2 留学許可及び単位認定等の申請手続については、各学部の定めるところによる。

■休学期間中に外国の大学において取得した単位の取扱い

第14条の5

第14条の2の規定にかかわらず、学部長は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において授業科目を履修し取得した単位を、本学における相当する授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、第14条の3の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて前期課程においては10単位、後期課程においては30単位を超えないものとする。

3 前2項の規定による単位認定等の申請手続については、前条の規定を準用する。

注釈

1 休学して海外修学する場合は、休学期間是在学期間には含まれないため、その分、卒業の時期が遅れることになる。なお、休学期間中に海外の大学等で単位を取得した場合の本学における単位の取扱いは、第14条の5の規定により各学部の定めによるので、教務担当部署で確認すること。

2 「留学許可願」を担当部署に提出する。

留学についての詳細は、留学時に在籍する学部の担当部署に事前に相談し確認してください。

※大学院学生については以下を参照してください。

●東京大学大学院学則 第28条(留学)

●東京大学大学院専門職学位課程規則 第23条(他の大学院における授業科目の履修等)

※2025年2月1日現在の情報です。

外国の大学において取得した単位の各学部・研究科の取扱い例

※本ページの情報は、2024年2月1日現在の情報です。※詳細については、各学部・研究科の規則や、教務担当部署で確認してください。

学部

法学部	法学部において開設されている授業科目に相当する場合には、これを「相当科目」として認定する。相当科目に該当しない場合においては、審査の上、随意科目として認定する。
医学部	単位認定を希望する場合には、事前に学務チーム(学部担当)に相談すること。なお、医学科は単位制ではない。
工学部	外国の大学に「留学」して修得した科目の単位認定は、当該学科の審査により、科目配当表の単位として認定することができる。また、それ以外の科目についても学科で必要と認めた場合には、卒業単位に算入することができる。
文学部	外国の大学で取得した単位の認定は、「留学」した場合および休学して外国の大学に「修学」した場合に限る。学部教務委員会において適切と判断された場合は、必修科目または必修科目以外の科目に認定され、卒業単位に含めることができる。
理学部	外国の大学において修得した科目および単位数は、手続きを行い審査の上認められた場合に、卒業に必要な単位数に含めることができる。認定を希望する者は、渡航前に所属学科事務室に相談の上、帰国後速やかに、単位認定申請書等必要書類を所属学科事務室に提出すること。
農学部	単位認定を希望する者は、事前に学生支援チーム(学部学生担当)に相談すること。
経済学部	学生交流協定に基づく交換留学派遣の場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教務委員会・教授会で審査の上、適切と判断された場合、本学部の基準で単位数を換算の上、選択科目として単位が認定され、卒業単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
教養学部(前期課程)	外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず事前に教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で説明を受けること。
教養学部(後期課程)	東京大学と学生交流覚書を締結している大学に留学等をして取得した単位については、所定の期間内に単位認定を申請し、学部教務委員会・後期運営委員会において適切と判断された場合、定められた上限単位数まで卒業単位として認定を受けることができる。詳細については「教養学部便覧」を参照のこと。
教育学部	原則として、全学学生交流に基づく交換留学協定校等、東京大学からの推薦に基づく留学先大学に限る。選択科目の単位として一括して認定することができる。単位の認定は学務委員会の議を経た後、教授会で承認する。
薬学部	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。

大学院

法学政治学研究科	〈総合法政専攻〉においては、学生が留学先大学で単位を取得した科目の認定には、学生からの単位認定申請にもとづき、学務委員会で判断する。なお、休学中に外国の大学院において取得した単位についても、認定することは可能である。
医学系研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限り)および留学の場合に、修士課程および博士課程を通じて10単位を超えない範囲で、研究科として認定の可否を行うので、学務チーム(大学院担当)へ相談すること。
工学系研究科	外国の大学の大学院に「留学」して、専攻分野に関する授業科目を履修し単位を修得した場合、申請により、研究科教育会議の議を経て、本研究科において単位を認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位を超えないものとする。単位認定を希望する場合は、渡航前に専攻事務室に相談すること。
人文社会系研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、修士課程および博士後期課程を通して15単位を限度として、自由選択科目の単位に算入することができる。また、休学の理由は「海外修学」に限る。なお、単位の認定を希望する場合は、学生支援チーム(大学院担当)に事前に相談すること。
理学系研究科	外国の大学の大学院において専攻分野に関する授業科目を履修し単位を取得した場合、修士課程および博士後期課程を通じて、15単位を超えない範囲で本研究科において単位を認定することができる。希望者は、渡航前に専攻事務室で手続きに関する指示を受けること。
農学生命科学研究科	所属専攻および教育会議の議を経て認定する。手続きは留学前に行うこと。認定範囲、提出書類等は教務課へ相談すること。
経済学研究科	学生交流協定に基づく「留学」の身分により科目履修を目的として派遣された場合は、留学先で単位を取得し、留学後に単位認定申請を行わなければならない。教育会議にて適切と判断された場合、本研究科の基準で単位数を換算の上、単位が認定され、修了単位に含めることができる。単位の認定は交換留学派遣で取得した単位に限る。
総合文化研究科	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において取得した単位および外国の大学の大学院が行う通信教育における授業科目を日本国内で履修し取得した単位は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位(国内の他大学院において修得し、認定した単位を含む)を超えない範囲で本研究科の授業科目および単位として認定することができる。単位の認定を希望する場合は、総合文化大学院チーム(GPEAK生は国際化推進チーム)で必要な手続きをとること。授業科目および単位の認定は、認定希望者からの申請を専攻等で審査のうえ、研究科教育会議で決定する。なお、本研究科の授業科目および単位の認定の申請ができる休学の理由は、原則として海外修学のみとする。
教育学研究科	留学期間中に外国の大学の大学院において取得した科目および単位は、研究科教育会議の議を経て、本研究科における選択科目に相当する科目および単位として認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士・博士課程を通じて15単位を超えないものとする。単位の認定を希望する場合は、学生支援チームにあらかじめ相談すること。
薬学系研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
数理科学研究科	単位認定を希望する者は、事前に教務チームに相談すること。
新領域創成科学研究科	外国の大学院等で修得した単位の認定は、休学(休学理由が「海外の教育・研究施設において修学」の場合に限る)または留学の場合に、研究科として認定の可否の審査を行う。希望者は、渡航前に新領域創成科学研究科教務チームへ相談のうえ、所定の手続を帰国後に行うこと。
情報理工学系研究科	外国の大学の大学院に「留学」して、専攻分野に関する授業科目を履修し単位を修得した場合、申請により、研究科教育会議の議を経て、本研究科において単位を認定することができる。ただし、認定できる単位数は、修士課程および博士後期課程を通じて15単位を超えないものとする。また、認定する単位数は、研究科規則に定められた算出方法に則って換算されるため、留学先大学で修得した単位数と同じ単位数で認定されるとは限らない。単位認定を希望する場合は、渡航前に専攻事務室で必要な手続を確認すること。
学際情報学府	留学または休学期間中に外国の大学の大学院において修得した科目および単位は、本学府の承認を得ることにより、修士課程または博士後期課程の修了に必要な単位として認定することができる。認定された単位については、修了に必要な単位数には他研究科科目として算入する。単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。
公共政策学教育部	公共政策学教育部において、教育上必要とみとめる時は、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、専門職学位課程の修了要件として定める単位数の2分の1を超えない範囲内で認定することができる。博士後期課程において単位認定を希望する者は、事前に学務チームに相談すること。

5. 語学能力検定試験

留学する場合、プログラムによっては留学先大学が求める語学能力の基準を満たす必要があります。また、奨学金の選考でも、語学能力試験のスコアが必要な場合があります。語学能力試験は、受験予約が取りにくいことがあるので計画的に受験しましょう。また、募集開始から書類提出締切までの期間が非常に短いプログラムもあります。締切日までスコアを取得できない学生が例年見受けられますので、短期・長期に関わらず留学を考えている場合は早めに受験し、有効期限を満たすスコアを常に所持しておくようにしましょう。

英語圏への留学

一般的に英語圏の大学への留学にはTOEFL iBTやIELTS(Academic Module)のスコアの提出が必要です。TOEICや英検(実用英語技能検定)は日本の就職活動等では広く用いられますが、海外大学への留学の際には語学能力証明として認められないケースも多いため、注意してください。また、TOEFL PBTやTOEFL ITPも公式スコアとして認められないケースがあります。

	TOEFL iBT	IELTS(Academic Module)
概要	米国を始め世界各国の大学等で英語力の証明として利用されており、150を超える国と地域の11,000以上の大学、機関、その他の団体が TOEFL テストスコアを受け付けている。2020年より、自宅で受験できるTOEFL iBT Home Editionも開始。	英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの教育機関で受け入れられており、米国でも広がっている。英語で授業を行う大学や大学院に入学できるレベルに達しているかどうかを評価するもので、一般的に、大学や大学院において英語で学びたい場合はAcademic Moduleの結果が必要となる。
スコア	0～120(1ポイント刻み)	1.0～9.0(0.5ポイント刻み)
試験日	ほぼ毎週末、年間50日程度(テスト会場受験の場合)	東京では毎月4回程度実施
受験料	US \$245(通常申込時)	27,500円
スコア有効期限	2年間	2年間

関連ウェブサイト: TOEFL <https://www.jp.ets.org/toefl.html> IELTS <https://www.eiken.or.jp/ielts/>

学内で開講している「スペシャル・イングリッシュ・レッスン(SEL)」(p33参照)では、日常会話、プレゼンテーション、TOEFL対策講座等の有料のプログラムを提供しています。留学応募前または留学が決まった後の英語力向上に活用してください。

英語圏外への留学

留学先の大学によって、必要な語学能力の基準が設定されている場合があります。下表に示す語学能力試験は一例ですが、一般的に日本語話者向けの検定(例:実用フランス語技能検定試験等)は海外大学への留学の際に語学能力として認められないケースも多いため、注意してください。また、語学能力試験によって有効期間が異なるので、必ず試験実施団体のウェブサイト等を確認しましょう。

(英語以外の語学能力試験例)

言語	語学能力試験
韓国語	TOPIK/KLAT
スペイン語	DELE
中国語	HSK
ドイツ語	TestDaF/Goethe-Zertifikat/Telc
フランス語	DELFLDALF/TCF/TEF

6. 安全と危機管理

海外では、不慣れな場所で、どこにどのような危険があるのかが十分に把握できないこともあるため、交通事故・窃盗・強盗・詐欺等、様々な被害に遭う可能性が高くなります。海外に留学するにあたっては、「自分の身は自分で守る」という意識と、そのために自ら情報を収集し、危機を回避することが鉄則です。東京大学では学生および教職員のための『海外渡航危機管理ガイドブック』を作成しています。海外に渡航する学生は必ず熟読し、海外でのリスクについて事前に知り、十分に準備するようにしてください。海外渡航危機管理ガイドブック <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/voyage-care.html>

健康管理と安全管理に関する事前準備

『海外渡航危機管理ガイドブック』を参考に、海外において安全、快適に研究・学習等を行っていくうえで欠かせない「健康管理」と「安全管理」の両面から、渡航前の危機回避対策を必ず行ってください(健康診断、歯科検診、常備薬の準備、予防(ワクチン)接種、渡航先に関する情報の事前収集、緊急対応リストの携行等)。留学前には、外務省「海外安全ホームページ」を必ず確認してください。国・地域別の「危険情報」「感染症危険情報」、犯罪・事件・テロについての情報や、渡航・滞在における注意事項を発信しています。また、東京大学の保健センターでは、渡航前医療相談を実施していますので活用してください。外務省「海外安全ホームページ」 <https://www.anzen.mofa.go.jp/> 保健センターラベルクリニック <https://www.hc.u-tokyo.ac.jp/in-campus/>

所属学部・研究科での届け出

留学等により海外渡航する際には、渡航目的により「留学許可願」、「海外渡航届」、「休学願」等の提出が必要になります。所属学部・研究科の担当部署に確認し、必要な手続きを行ってください。

海外渡航中の報告・連絡・相談

海外渡航中、何か問題が生じた場合や相談事があるような場合、また緊急事態等が発生した場合は、速やかにプログラムの担当者や東京大学の担当者に報告・連絡・相談してください。また万一生命、身体が危険にさらされるような事態が生じた場合は、渡航先の在外公館に援護を求めてください。現地で天災、感染症、テロ等が発生した場合は、たとえ自分には何も被害がなくても、安否について速やかに東京大学の担当者に連絡してください。なお、家族にも定期的に連絡を取るようにしてください。

「在留届」の提出・「たびレジ」の登録

日本国籍の方が海外に3ヶ月以上滞在する場合は、「在留届」の提出が必要です。万一、海外で事件・事故や思わぬ災害に巻き込まれた場合、日本国大使館や総領事館は、この「在留届」をもとに日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護します。また、3ヶ月以内の滞在では、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」に登録しましょう。同省の専用サイトに必要事項(旅行

日程・滞在先・連絡先)を登録することにより、滞在先の最新情報や緊急事態発生時の連絡メール、あるいは、いざという時の緊急連絡等の受け取りが可能です。外務省ウェブサイト「海外渡航・滞在」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/index.html>

保険への加入

海外渡航中の保険については、必ず出発前に、出発から帰国までの期間をカバーする海外旅行保険・留学保険等に加入してください。プログラムによっては、公益財団法人日本国際教育支援協会(JEES)の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に加入することが参加の条件となります(グローバル教育センター担当のプログラムについてはこれに該当します)。また、留学先大学等から指定する保険に加入することを求められた場合は、併せて加入が必要です。※日本の海外旅行保険・留学保険等は出国後には加入できないため注意してください。

留学生危機管理サービス「OSSMA: Overseas Student Safety Management Assistance(オスマ)」

OSSMAは、海外滞在中に困ったことが発生した際に24時間365日、日本語・英語により適切なサポートを提供するサービスです。サービスの内容は、病気や怪我の電話相談、安否確認、ご家族渡航サポート等となっており、希望する場合加入できます(一部プログラムでは加入が参加の条件となります)。詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/study-abroad/ossma.html>

その他

海外でも東京大学の学生であることを常に自覚し、行動や振る舞いには十分気をつけましょう。その他、プログラムの担当者、所属学部・研究科、指導教員等の指示に従い、安全と危機管理に十分注意してください。



7. 留学と就職活動

留学を考える際に、就職活動のことが気になる学生も多いでしょう。留学も就職活動も悔いなく両立するためには、留学が就職活動に与えるとされるメリットやデメリット、就職活動をする年度の採用スケジュールや留学先で参加できる就職イベント等、事前の幅広い情報収集が重要です。

留学前に大学の窓口を利用しましょう

就職活動のスケジュール(企業の採用情報公開の時期、面接等の選考開始時期)についてキャリアサポート室等を利用し、常に最新の情報を得られるように準備しておきましょう。

留学前に情報収集しておくといこと

●就職活動のスケジュール ●帰国後の履修・卒業計画 ●外資系・ベンチャー企業等独自の採用活動を行う企業情報

情報収集の機会

●留学先の大学や都市のキャリアフォーラム ●各種キャリアガイダンス(キャリアサポート室主催)
●海外留学経験者向け就職情報サイト

大学の留学フェアを利用して留学経験者や留学担当者等から話をたくさん聞き、より多くの情報を収集しましょう。留学先や留学から帰国する時期・卒業の予定等それぞれの事情にあわせて、自分の就職活動を考えてみましょう。本郷のキャリアサポート室では就職活動のスケジュールをはじめ、留学が進学か迷ったときや、企業分析や自己理解等の相談に専門のキャリアアドバイザーが個別にお応えします(ただし、英語のエントリーシートの添削は行っていません)。OBOG訪問用名簿や先輩の進路情報もありますので、利用してください。キャリア相談およびOBOG名簿の閲覧は予約制ですので、キャリアサポート室のウェブサイトからお申し込みください。

最新情報はキャリアサポート室ウェブサイトをご確認ください

<https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/>

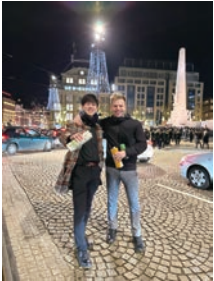


学生体験記

氏名：水口 隼希さん
所属・学年(留学開始時)：工学系研究科社会基盤学専攻修士2年
留学先大学：ライデン大学
留学期間：2022年9月～2023年1月(5ヶ月間)
就職先の業界：総合商社

「働く」ことの意味・概念の異国での学び

私は留学前に就職先が決まっていたが、業界選択や企業選び等自分のキャリアの選択に自信を持たせてくれ、将来の視野を広くしてくれたのはこの留学だったと思います。日本で忙しく過ごす中、今後のキャリアや自分の生き方を見つめ直す期間として従来の価値観や社会システムと違う環境で生活することを目的に学部時代にデンマークにも半年、交換留学をしました。そして日本に帰国後の修士課程では、その際に感じた日本での働き方や人生の過ごし方に対する違和感、しかし同時に感じた日本の居心地の良さ、日本という国の素晴らしさ、友人らから聞いたりリアルな働き方、このすべての情報を咀嚼し、結論を出すこと(どこでどう働きたいか)に努めました。そして、明瞭でなくとも自分なりの答えを出しオランダに留学したわけですが、デンマークとさらに違い、むしろ働き方やキャリアに対するモノの見方において日本との共通点をオランダでの生活で感じました。また同時に、現地の友人との会話や生活を通じて、工学(国際協力学)という専門から離れ、かつ海外勤務という可能性のある将来の仕事を選ぶという自分の選択が、自分の納得の上であったという思いをより強くしてくれました。今後の自分の人生に更に期待感を感じさせてくれたオランダでの生活は、就活という人生のステップに対しての答え合わせの期間でもあり、同時に自分の今後の人生の道標になると思っています。価値観を広げたり、海外に住むとは具体的にどんなことなのか、漠然と海外について知ったりするという意味でも、少しでも海外に興味のある学生はぜひ一度留学に行くことをお勧めします。



8. 卒業後の大学院留学

ここまで、交換留学や短期の留学といった、東京大学在学中の留学について紹介してきました。東京大学では現在、主に在学中の留学をサポートしていますが、卒業後の海外の大学院への留学についても情報提供等を行っています。

海外大学院のシステム

海外の大学院は、留学期間は異なりますが、大きく分けて Graduate School と、Professional School の2つの種類があります。Graduate School では、東京大学在学中に学んだ学術研究をより専門的に深めることができます。一方、Medical、Law や Business に代表される Professional School では、職業に直結した教育を受けることができます。世界各国で教育システムが異なるように、海外の大学院のシステムは日本と異なることが多いので十分な情報収集が必要です。大学院レベルで提供される学位は、修士号(Master's Degree)と博士号(Doctoral Degree or Ph.D.)があります。修士課程は、通常1～2年間の課程です。講義の履修だけで修了できるプログラム、修士論文を課すプログラム等、その形態は大学や学科によって様々です。博士課程は決まった年限を設けていないことが多いですが、概ね3～5年程度の研究期間を必要とします。修士号を必要とするプログラム、修士課程を経ずに直接出願可能なプログラムがあり、前者は

修士課程で取得した単位を用いることができる場合もあります。後者は修士課程・博士課程が一体となっているもの、修士号の取得をスキップするもの等、状況や希望に合わせて進路を選べるプログラムも存在します。

大学院留学の情報収集

留学先の国や大学によって制度が異なる場合が多く、学士課程時の専攻と異なる分野での留学も可能なため、事前の情報収集が重要です。東京大学では、以下の方法で情報を入手することができます。

● Go Global ウェブサイト

大学院留学に関する奨学金の情報を提供しています。

● 説明会等の大学院留学関係イベント

Go Global ウェブサイトやSNS(p35参照)で、海外大学や各国大使館等が主催する説明会等、大学院留学関係のイベントを紹介しています。東京大学と関係の深い大学については東京大学で説明会が行われる場合もあります。

海外大学院留学説明会

東京大学の卒業生を中心とした団体である米国大学院学生会では、海外大学院留学に関する情報提供や説明会等の開催、およびそのサポートを行っています。詳細は米国大学院学生会のウェブサイトをご覧ください。



ウェブサイトにアクセス

<http://gakuiryugaku.net>



大学院留学のスケジュールと必要なもの

海外の大学院への出願プロセスは、国内大学のものとは全く異なります。特に、米国やヨーロッパを中心として「GPA」「英語のスコア」「推薦状」「エッセイ」等を求められることが多いので、ここではそれらについて紹介します。具体的な点数や、そのほかに提出を求められるもの等は、出願先によって大きく異なりますので、詳しくは出願先の大学院のウェブサイト等を直接確認しましょう。

- GPA: Grade Point Averageの略、授業成績の平均点を指します。後から取り戻せないものなので、早い段階から意識しておきましょう。
 - 英語のスコア: TOEFLやIELTSが該当します。特に米国の大学院出願に必要なTOEFL iBTは、大学の講義や議論といった状況が想定されており、出願時だけでなく、進学後の英語対策にも効果的です。また、英語以外の共通試験として、米国のほとんどの大学院ではGREの受験が求められます。
 - 推薦状: 計3通の提出を求められることが多いです。受験者の経験や能力、才能、人柄に関する記述が、具体的に書かれていることが大事なポイントとなります。自分の強みを多様な観点から評価頂けるように、先生方との関係を築いてください。
 - エッセイ: 志望動機や、自分の研究での強み等をまとめた文章です。具体的に書けるように、専門分野の勉強を積み重ねましょう。
 - その他: 研究業績(インパクトファクターの高い雑誌の筆頭著者論文等)や、外部奨学金等を持っていると高く評価されます。また、事前に受験先(指導教官の候補等)に連絡を取り、出願の意思表示をすると共に、自分の能力やどのような内容の研究が可能であるか等について、積極的な情報交換を行うことも非常に効果的です。
- 最終的な可否の判断は、これらの総合評価となります。出願年は出願書類や奨学金の応募書類、業績を上げるための卒業(修士)研究に集中できるように、それまでにGPAや英語のスコア等の準備を整えておきましょう。

9. よくある質問

【留学準備】

Q. 留学を希望する場合、いつ頃から準備を始めればよいですか？

A. （全学交換留学等長期留学の場合）留学のおよそ1年前に募集が行われるので、その時期に応募できるよう、早めに情報収集や語学能力試験の受験を進めておきましょう。
（サマープログラム等短期留学の場合）グローバル教育センターが担当するサマープログラムの場合、プログラムによって異なりますが、その年の4～5月に募集が行われるプログラムが最も多いので、その時期に応募ができるよう、早めに情報収集を進めておきましょう。個人で応募するサマープログラムも、早いものでは2～3月に応募が締め切られるものもありますが、中には6月頃まで申し込み可能なものもあります。募集スケジュールはp34を参照してください。

【学籍・単位】

Q. 1学期～1年の間留学しても4年間で学部を卒業できますか？

A. 交換留学の場合、期間や時期、単位取得や単位認定の状況によっては、4年で卒業が可能な場合もありますが、1年間の留学だと留年が必要となるケースも多くあります。所属学部を確認の上、計画的に授業履修や留学の準備を行ってください。ただし、単位の取り扱いは学部ごとに異なりますので、必ず交換留学の計画段階で所属学部を確認してください(p42-43参照)。

Q. 現在休学しているのですが、全学交換留学や東京大学のプログラムに応募できますか？

A. 留学時に休学から復帰が必要なプログラム、休学中でも留学可能なプログラムがあります。必ず各プログラムの担当部署や、所属学部・研究科の担当部署に確認をして申請してください。

【応募条件・選考】

Q. 前期課程の学生も全学交換留学に参加できますか？

A. できます。ただし、前期課程の科目の履修計画に関する留意点や、外国の大学で取得した単位の扱いについては必ず教務課前期課程チーム(PEAK生は国際化推進チーム)で事前に説明を受けるようにしてください。

Q. 英語に自信がなくても参加できる留学プログラムはありますか？

A. 語学力向上目的のプログラムもありますので、Go Global ウェブサイト等でよく調べてみてください。一口に留学といっても、プログラムごとに目的や内容・レベルは様々ですので、自分のイメージだけで判断せず、事前にプログラムをよく調べて自分に適したプログラムに参加するようにしましょう。

Q. 全学交換留学の学内選考はどのように行われますか？

A. 全学交換留学の派遣候補者は、所属学部・研究科を通じた申請を経て、学業成績・申請書の記述内容や面接等によりグローバル教育センターで総合的に選考審査され、決定されます。

Q. Go Global ウェブサイトには締切日や提出先が記載されていない場合がありますが、どこで確認できますか？

A. 東京大学では多くのプログラムで、自分の所属学部・研究科に応募書類を提出することになります。締切日や提出先は各学部・研究科で異なりますので、Go Global ウェブサイト上には記載されていないことがあります。各学部・研究科のウェブサイトや掲示板、窓口等で必ず確認するようにしてください。

【費用】

Q. 留学に行く場合、費用はどのくらいかりますか？

A. （交換留学の場合）行く地域にもよりますが、日本で生活する場合とあまり変わらない程度の費用で留学することができる場合もあります。渡航費や生活費等は必要ですが、東京大学に授業料を納めていれば、留学先での授業料は不要となるためです。交換留学の場合、協定校の寮が利用できる場合が多く、奨学金制度も充実しているので、費用を抑えて留学することも可能です(p38-39参照)。
（サマープログラム等短期留学の場合）費用はプログラムによって大きく異なります。ほぼ無料で参加できるものから、数十万円のプログラムまで様々ですので、よく調べ、予算に応じて参加プログラムを検討してください(p13-15参照)。

【その他】

Q. 各プログラムの応募の倍率はどのくらいですか？

A. 応募の倍率はプログラムによって大きく異なり、情報公開していない場合も多くあります。全学交換留学の場合は、Go Global ウェブサイトの各プログラムのページで応募状況や派遣実績を公開しています。人気が集中し倍率が高くなる留学先やプログラムもあるので、併願ができる場合は複数のプログラムに併願することをおすすめします。

Q. 現在申し込みもうと考えているプログラムの詳細や、過去の参加者の経験はどこで知ることができますか？

A. まずは東京大学が公開している募集要項、留学先大学が作成しているプログラムのウェブサイトやパンフレットをよく読んでみてください。また、グローバル教育センターが担当するプログラムでは、Go Global ウェブサイト上に過去の参加者による詳細な報告書・留学体験記を掲載しているので、確認しましょう。派遣前のオリエンテーション等で過去の参加者と情報交換できる場合もあります。

留学体験記にアクセス



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/report-list.html>

Q. 短期留学プログラム等に参加したいのですが、東京大学の授業や試験期間と時期が重なっている場合はどうなりますか？

A. 海外の大学は6～7月が夏休みのところが多いため、その時期に開催されるプログラムも多くあります。自分の授業・試験日程等を応募前に十分確認し、参加が可能なプログラムに応募してください。留学のために東京大学の授業や試験に出席できない場合の扱いは、留学時の所属学部・研究科の判断によります。留学プログラム等への参加に際して、特別な配慮が行われるとは限りませんので、学部・研究科の担当部署に事前に十分確認し、納得した上で参加申請を行ってください。

Q. 留学について質問したいのですが、どうしたらよいですか？

A. 現在募集中のプログラムに関する具体的なことについては、所属学部・研究科の担当部署や、募集要項に記載されている問い合わせ先に確認するようにしましょう。
その他、留学に関する一般的な情報提供およびグローバル教育センター主催のプログラムに関する東京大学の学生からの質問はウェブサイトで受け付けています(p36参照)。
また、特定の学問分野の留学事情等については、所属学部・研究科の担当部署や指導教員、先輩等に相談してみるのがよいでしょう。

Go Global ウェブサイトでは、よくある質問を随時更新しています



<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-faq-index.html>

海外には数多くの東京大学同窓会があります！

東京大学卒業生のネットワークは近年急速に広がっており、海外には、35の国と地域に59の同窓会が組織されています。海外における体験活動プログラムや海外在住の卒業生とのオンライン交流会、留学に関する相談等を通じて、在学生に向けて様々なサポートを提供してくれています。世界で活躍している卒業生とのネットワークをぜひ活用してください。

UTokyo Overseas Alumni Associations

● You can search each alumni association on the map by the name or country/region.
● Selecting a point on the map will display the name of the alumni association and the contact email address. (Please replace "[at]" with "@".)



海外同窓会の一覧と各同窓会のコンタクト先はこちら



https://www.u-tokyo.ac.jp/en/alumni/alumni_association.html

東京大学GO GLOBALガイドブック2025

〔編集・発行〕2025年4月1日／東京大学グローバル教育センター

〔E-mail〕 studyabroadfair.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 〔Web〕 <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/>

